

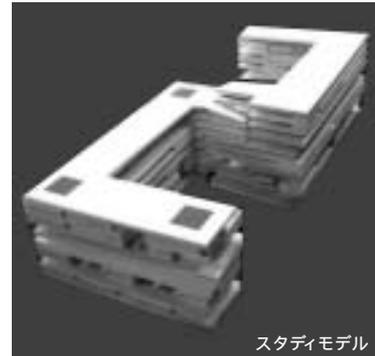
SHUNKEN 2002-04 30-01

駿建

2002年新学期号 Vol.30 No.1 日本大学工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

青森市北国型集合住宅国際設計競技 特別賞受賞

本杉研究室



スタディモデル

このコンペは2001年9月、青森市の主催で行われました。総事業費約80～90億円が予定されている実施コンペで、北国ならではの新しい集合住宅の提案を要求し、中心市街地の活性化、雪をプラスイメージで捉えることのできる北国ならではの都市空間、地域コミュニティの形成、高齢者や障害者への配慮、子育てしながら生活できる施設環境、エコロジーや健康への配慮、都市景観に配慮した外観・デザイン等が求められていました。

審査員が安藤忠雄、ジャン・ヌーベルの二人だけというのも特徴的でした。こうした背景により、応募作品は国内外51の地域から総数897点（国内527件、国外370件）寄せられ、国内外から著名な建築家の応募が多数ありました。そして、今年2月5日には最終審査に残った7作品が設計者によりプレゼンテーション、講評されました。最終審査は全て公開形式で行われ、その場で最終順位も決定されるという大変透明性の高い仕組みでした。残念ながら最終審査には残れませんでした。この中で私たちの作品は19点の「特別賞」の1点に選ばれました。

PROCESS

コンペは、本杉研究室として単独でコンペに参加しようということから始まりました。今までは、個人や高宮研究室と合同という形でやってきたため、進め方も気持ちも、今までとは異なる新鮮なスタートとなりました。

まずは敷地調査へ

私たちのほとんど全員が青森は初めてだったため、地方独特のコンテクストを探ることから始めました。しかし、雪国特有の「雁木」や「退雪場所」などはすぐに見つけたのですが、街全体としては、どこにでもありそうな地方都市市街地の1つという印象でした。戻ってから写真や地図を眺めてばかりいましたが、どうにもピンとこない日が続いていました。ある時、駐車場を地図上にプロットしたら思いのほか多いことに気付き、そこから住居・駐車場・都市生活をどう組み立てるかのヒントを得た感じです。

ヴォリュームスタディから

まず求められているプログラムを建物に当てはめると、所用の住宅機能だけで容積率のかなりの部分を占めること、さらに提案すべき都市的機能やコミュニティ機能を加えると、かなり大きなヴォリュームとなることがわかりました。しかも、駐車スペースや採光・通風を考慮してヴォイドや空隙を計画するとなると、それらを全て低層に収めることは、なかなか困難なように思われました。敷地が商業地域であることから法規的な制限は比較的少なく、かなり自由に建物を計画できるのですが、計画建物自身で日影を作ってしまうたり、近隣の影響を与えることが留意点となりました。



1階広場部分



立体化した道路



住戸横付け駐車

都市型集合住宅はどんなものであるべきか

一方、大きな課題として集合住宅の在り方が問われていました。北国ならではの提案、雪を楽しみ、親しむことができる建物、そして集まって住まうということへの新しい提案が求められていました。しかし、都市型の集合住宅として、低層部に公共施設を配置し、上層部に住戸が配置されるという一般的なコンプレックスには最初から懐疑的でした。こうしたステレオタイプ化した形式では、住宅と都市とが乖離してしまい、集合している意味合いや都市的な複合とはいえないのではないかと考えました。

そこで私たちは、街から低層部へとシームレスにつなげる、その関係が住戸まで続く、住戸を都市と並列に位置付ける、都市空間の公共性を計画全体にもたらず、住戸プライバシーを確保しながら、ライフスタイルの変化に対応する柔軟性を持つ、これらのことを考慮し、都市を構成している要素がそのままこの計画建物内に息付くよう扱うことを考えました。

街の心臓（道と活動）を連続する

それを実現するために、「道」を3次元的に建物内にとりこみ、外部と内部をひとつの街として連続させました。車と人が共存し合う生活・街、住まいと各種都市機能が入り組んだ街、立体的な連続性が街を再構成し、賑わいと活気を呼び込むことが目的です。これにより、私たちの案の特徴である立体街区と上層階への車の乗り入れが生まれました。

中心市街地であっても車社会という現実からは逃れられません。車と人がいがみ合いお互いを遠ざけることで安心するのではなく、共にいることで環境を向上させていくことが今後ますます必要とされるのではないのでしょうか。道を取り込み、街の立体化を唱えるからには、200の住戸全てに駐車場があることは絶対条件です。さらに複合機能の利用を高めるために、車を積極的に受け入れる空間が必要でした。最低でも300台の駐車を確保することを考えました。しかも、車が停車していない時には

ポケットパークにしようという提案です。

利便性を保証する住戸横付け駐車

地方都市は車社会です。戸建て住宅と同様の利便性・安全性を保証しなければなりません。そこで、各住戸に横付けする駐車場とし、door to doorで家 職場 商店 社会施設等が直接車で結ばれている生活を建物内外で可能としました。もちろん徒歩や自転車で行くことも可能です。つまり、この集合住宅では家の前から街が始まっているのです。ここでは、街中を歩くようにショッピングをしたり、気分転換をしたり、遊んだり、おしゃべりしたり、公園へ行ったりすることも可能です。これらによって冬季でも活発なアクティビティを確保することを考えました。

北国型住宅に対するアイデア

冬温かく、夏涼しい暮らしを考えて、道と住戸の間に中間部を設けることにしました。それはいわば「風除室」の拡張版です。単なる前室として捉えるのではなく、様々なアクティビティに対応できる場所へと変容し、街との接点（視線、領域、関係性）とすることを考えました。

そこは、通行量が少ない道・駐車場とつながり、しばしばテラスになり、コミュニケーションスペースにもなります。住戸と道の中間部は現代的な雁木として環境的に緩和された空間で、住まいと道・各種アクティビティをつなげます。夏は開いて風を通し、冬は閉じて冷気を遮断します。そして、道に吹きつけられた雪は、側面の小川（排雪溝）から庭の池へと導かれます。

三層構成のメガフレーム

車が高層部まで乗り入れることになり、通常の建築とは異なる構造が必要となりました。3層で1単位となるユニット4段を均等に配置された6つのコアで支える大きな棚のような構造です。各ユニットは1・2層が歩車共存ゾーン、3層は歩行者のみとし、両者の関係にバラエティを与えています。1層は大スラブで2層目はそこ



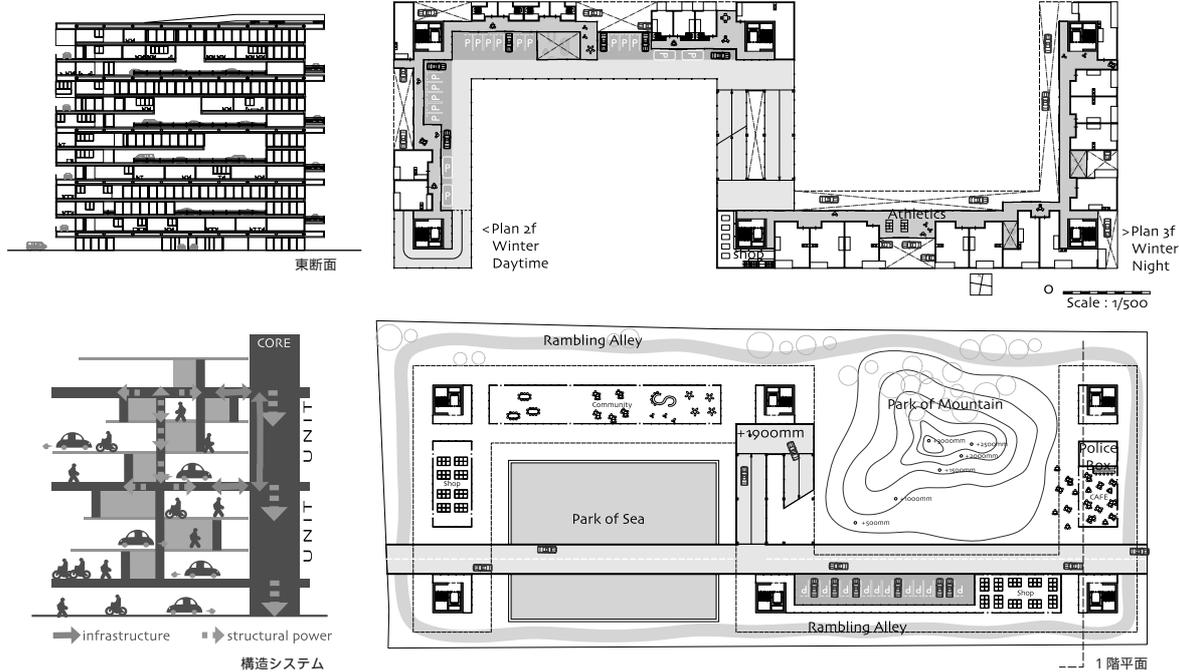
道と住戸の間の中間部



つながるアクティビティ



空間のヴァリエーション



から建ち、3層目は基本的にぶら下がるという構造形式です。これにより住戸やその他の機能は構造から解放され、融通性のある計画がもたらされます。大スラブ内に設けられた空気層は、暖気や冷気を取り込んで循環する快適なシステムを支援します。

配置・外構

全体の形を巡っては幾つものスタディを繰り返しました。最終的には、採光や外部との接続、プライバシー確保のためにS字のヴォリュームとしました。そして、このヴォリュームによりできる2つの広場を青森のランドスケープの縮図（海と山）として位置付け、北に広がる海と、南の山なみを入れ子状に配置しています。

公開審査@東京大学

公開審査は、上位7チームが自らの案をプレゼンテーションし、審査員によって質疑応答が行われるというものでした。会場が小さく立ち見ができるほどの混雑で、その分熱気に包まれている感じでした。登録番号順にプレゼンテーションが進行し、オランダからの参加チーム Atelier Kempe Thill Architects and plannersの提案が発表された時は本当に驚きでした。彼らの提案が私たちの提案と限りなく似ていたのです。上層部まで車が入られること、2層おきに車道が走っており、そこに建つ住戸を戸建てのように扱っていることなど、全体の形は異なっていましたが、基本的思考がうりふたつでし

た。J.ヌーベルは特に気に入っている様子でしたが、結果的には優秀賞（2位）に終わりました。見ていた私たちには何とも歯痒い結末でしたが、同時に自分たちの案がこのテーブルに乗れなかった悔しさも味あわせられました。ちなみに最優秀賞となったカナダ人チーム案は堅実でスマートな提案でしたが、新鮮みには欠けるように感じました。

苦労・苦悩

作業当初は、毎回全員がそれぞれ案を持ち寄って話し合うという方法で、そうした沢山の考えを1つの案に集約していくことが何より難しい作業でした。険悪なムードになることもしばしばでした。しかも、車を家の前まで、上層部まで引き込むことが重要であるとした時点から新たな問題点が増えました。車のための斜路とその位置、住環境への影響と対策、周囲への配慮とつながり、全体ヴォリューム構成とデザイン等のスタディに多くの時間が費やされました。何より、車路を上層階まで導入することによって大きくなってしまいうヴォリュームについては多くの話し合いがもたれました。途中、何度も妥協案ができましたが、簡単に解決してしまうのではなく、多くの可能性を繰り返しスタディすることによって、最終的にまとめていくことができました。

楽しかったこと

結果、賞をとれたことが何より楽しかったことであり

ますが、反面、やはりとても悔しさもあります。最終審査まで残れたのがオランダチームで、自分たちでなかったことです。同じコンセプトでも、それを形にするものの難しさを感じました。

コンペに参加していた若色研究室、高宮研究室等と一緒に頑張ったこともいい思い出です。たまに探り合ってみたり、一緒に夕飯を食べたりしながらも、競い合って学ぶ楽しさを経験しました。ワークショップに来ていたダルムシュタットからの学生たちと交流をもてたこともよい経験でした。また、夏休みだったためコンペだけに集中できたことが幸いでした。おかげで夏休みがまるまるつぶれてしまったのですが、終わった後は非常に充実感があり、とても有意義なことであったと感じました。

大変でしたが、今回のコンペに参加したことによって得たものはとても大きかったように思います。そして、頑張れば大きなコンペでも評価されるものなのだと証明・実感できたことは非常によい経験でした。今回は特別賞でしたが、次回はよりステップアップができるよう頑張っていきたいと思っています。

(梅田 綾・日下部寛之・平井直樹・本杉研 M 1)

構造協力者からのコメント

「マンションの玄関先まで車で行く!？」、初めは少し驚いたものの、雪国で車社会、そこにある問題を解決する方法としては、とてもユニークで面白い! と思いながら自称エンジニアの立場で参加させてもらいました。実際の建物を様々な視点で考え、議論し、スタディする。普段とは違う刺激を受け、改めて建築の楽しさを感じ、そんな機会を与えてもらったことに感謝しつつ、次の機会を心待ちにしたい。強いて言えば、もう少し早めに声をかけてもらえば、なお嬉しい。

(宮里直也・斎藤研 D 2)

今回の応募登録は4,000以上ですから、このコンペに挑戦した人たちは世界中で1万人以上になります。そんな中で研究室の大学院生と一緒に「特別賞」に選ばれたことは大きな成果です。学生でも世界と互角に戦える、この気持ちが大切なことで、私たちに勇気を与えてくれたことは確かです。でも、最優秀になれなかった悔しさも残る。つらい・苦しい・悲しい、でも楽しい・嬉しい、だから繰り返す・諦めない、こうした経験が私たちを成長させてくれることを学外でのコンペ活動を通じて私自身学んできました。消耗もしますが、様々なことを考えるきっかけになることが重要です。ろくな睡眠時

間もないのに、コンペに向かっている学生たちの顔は輝いていて美しい。ただし、これはほんの一步に過ぎません。一人一人がこの顔をいつまでも持ち続けていくことが次の鍵でしょうか。コンペでも普段の課題でも、様々な価値観に向き合い、空間的なヴァリエーションを考え、そこから合理的かつ想像力に富んだ案を発見することで同じです。自分もそれに挑戦してみようという人が増えてくれたらいいな。

(本杉省三・教授)



スタジオの様子

[コンペ参加者] 本杉省三・宮里直也(D 2)・阿藤俊博(M 2)・新野高史(M 2)・梅田 綾(M 1)・日下部寛之(M 1)・平井直樹(M 1)・水野 聡(M 1)
[協力] 本杉研究室4年・ゼミナール

平成14年度 履修要項

建築学科

平成14年4月

1. 履修に関する一般事項

履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の3年次編入生には、平成12年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもともなって改訂されることがある。平成5年度および平成10年度の

改正によって、1～5年次生、6～8年次生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。特に平成10年度から実施されている新カリキュラムでは大幅な改訂が行われている。6年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。

相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続き等はガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部等の講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

教職課程の受講 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項 教職課程 を参照されたい。

平成14年度クラス担任一覧

学年	クラス担任	研究室No.・電話番号（内線）
1年	岡村 武士	船・大型構造物試験棟 047-469(5366) 駿・946 03-3259-0(928)
	石垣 秀典	駿・454 03-3259-0(695)
	A 朝倉 徳雄	船・体育館研究室G 047-469(5298)
	" 山崎 晋	船・543-A 047-469(5234)
	B 稲井田次郎	船・543-C 047-469(5234)
	" 小川 貴	船・体育館研究室D 047-469(5327)
	C 中川 浩	船・541-A 047-469(5230)
2年	" 石井 直紀	船・544 047-469(5234)
	1組 早川 眞	駿・453 03-3259-0(707)
	" 八藤後 猛	駿・965 03-3259-0(712)
	2組 石田 道孝	駿・965 03-3259-0(715)
3年	" 富田 隆太	駿・583-A 03-3259-0(699)
	1組 今村 雅樹	駿・589 03-3259-0(706)
	" 蜂巣 浩生	駿・453-B 03-3259-0(707)
	2組 岡田 章	駿・439-B 03-3259-0(710)
4年	" 渡辺 富雄	駿・966 03-3259-0(967)
	1組 井上 勝夫	駿・582-A 03-3259-0(418)
	" 佐藤 直樹	駿・579-A 03-3259-0(711)
	2組 宇杉 和夫	駿・589-B 03-3259-0(462)
	" 大川 三雄	駿・588-A 03-3259-0(718)
5年次以上	斉藤 俊一	駿・431-A 03-3259-0(704)

大学院理工学研究科建築学専攻（修士）

1年	清水 五郎	駿・439-A 03-3259-0(698)
2年	若色 峰郎	駿・966 03-3259-0(714)

大学院理工学研究科不動産科学専攻（修士）

1年	宇於崎勝也	駿・577 03-3259-0(700)
2年	根上 彰生	駿・577 03-3259-0(700)

1年次生

○履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成14年度

学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに科目担当教員から配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（建築学コースと企画経営コース）選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。両コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期に行われる。

○総合教育・外国語・基礎教育・専門教育科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に設置されている。なかでも基礎教育科目の微分積分学、基礎物理学 および工業数学は専門教育の基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得すること。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

また、1年次の専門基礎教育科目（専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした科目）として、建築概論、デザイン基礎、の必修3科目およびコンピュータリテラシ、情報処理の選択2科目、専門教育科目として建築基礎実験、建築の計画と技術、建築史概論、構造力学、構造力学演習 が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから1年次ですべて受講するとよい。

1年次では40単位修得を目標に頑張してほしい。ただし、無計画に毎日5時限まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

2年次生

諸君のメインキャンパスは船橋校舎だが、週1回、建築設計、と建築材料実験を駿河台校舎で受講してもらうことになる（1組：月、2組：木曜日）。すこし変則的なキャンパスの使い方、不便なことが多いと思うが、大学の施設拡充のために協力してもらいたい。

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成13年度(2001)学部要

覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、クラスを変更した受講はできない。

2年次設置の専門教育科目はすべて、これから建築を学んでゆく上の基礎的な科目であるから、時間割に組まれたこれらの科目は、単位数からみても全部履修することが望ましい。とくに、印のついた16科目（企画経営コースも16科目）は「選択必修科目」である。「必修」と同様に考えて、受講してもらいたい。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、線形代数学、微分方程式、材料化学 の3科目8単位である。卒業条件としては、1年次設置の建築概論、デザイン基礎、等を含めて合計16単位以上を修得すればよい。受講計画上は、3、4年次の構造系専門科目の基礎として「微分方程式」、「材料化学」を、環境工学、都市計画、建築計画などの計画系専門科目の基礎として「線形代数学」の受講をすすめる。

○建築学コース、企画経営コースの選択と登録について

諸君は2年次後期に「建築学コース」か「企画経営コース」を選択・登録し、以後はそれぞれのコースのカリキュラムに従って、各学科目の選択・受講の計画を立てることになる。コース選択の方法は、後日クラス担任および企画経営コース担当の教員から説明がある。なお、前期に設置されている「不動産科学概論」は企画経営コースの入門的な内容で、両コースの学生がそれぞれ専門教育科目の一つとして受講できるようになっている。なお、企画経営コースのB系列専門科目は、コース選択が決定した後期に受講登録できる。

○建築設計、および建築材料実験の受講について

建築設計も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料その他、各種の注意事項が、駿河台校舎5号館5階エレベータホールに掲示されるので、毎週月、木

曜日に駿河台校舎に来たら、必ず掲示を確認するとよい。

3 年次生

○専門教育科目の受講について

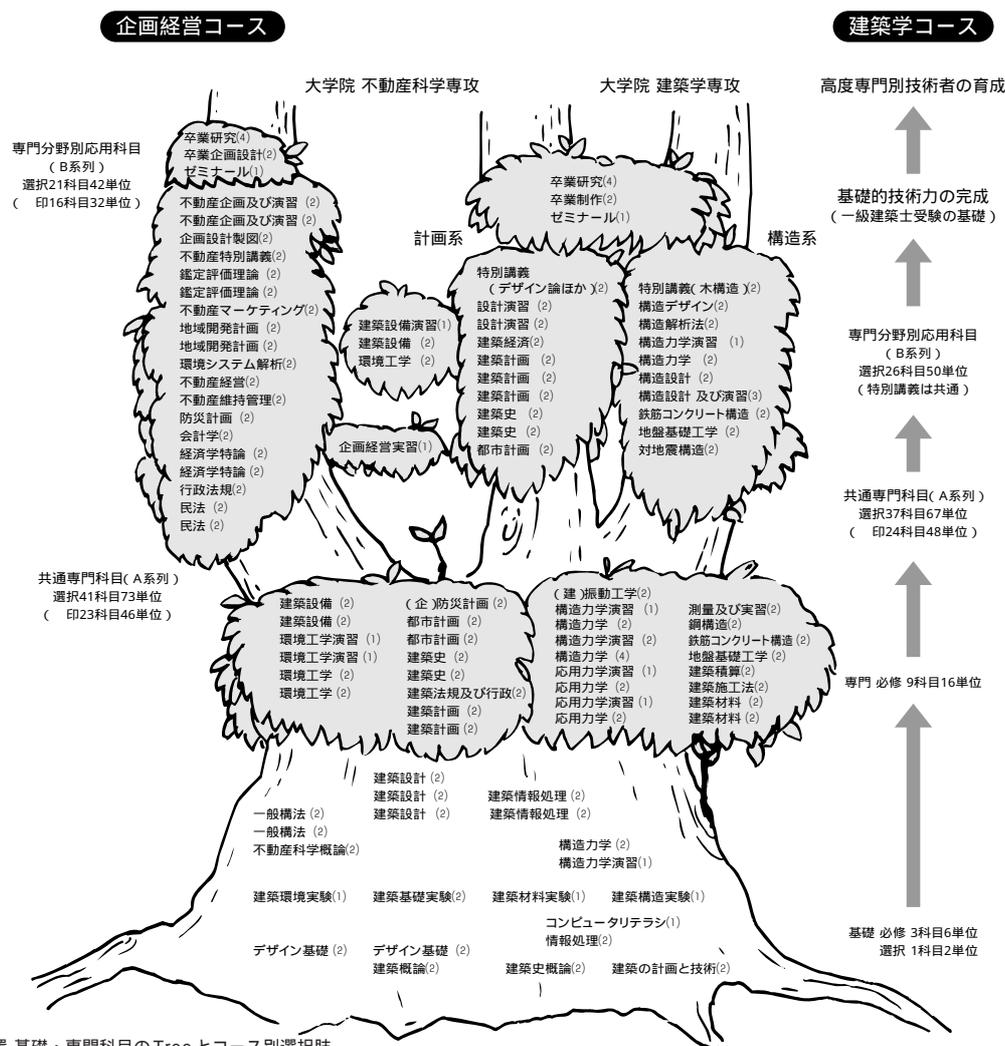
2 年次と同様に 3 年次には、建築を学んでゆく上で基礎となる専門教育科目が設置されている。自分の専攻分野を決めるために各方面にわたる科目を 3 年次で一通り履修しておくこと。2 年次設置専門科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

ただし、3 年次編入生が 2 年次設置の 印専門科目を駿河台校舎で受講できるように特別な時間割表が組んであるので、よく検討して時間の無駄のないように受講計画を立てること。受講順序は、2 年次設置科目から優先

的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から、本年度の受講計画が一番難しい。そこで、編入生に限りクラスを変更して受講することが認められることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談すること。

建築学科の卒業条件としては、必修、選択必修科目を含めて専門教育科目 82 単位以上を修得しなければならない。また 4 年次設置の専門科目は、原則として諸君がそれぞれ自分の専攻分野を決めてから受講する選択科目だから、3 年次終了までに専門教育科目の単位は少なくとも 70 単位以上修得しておくべきである。

とくに企画経営コースでは、3 年次に基礎的かつ重要な専門科目が集中設置されているので、これらの単位は必ず修得しなければならない。



○卒業研究着手条件について

諸君が来年度に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%にあたる102単位以上を今年度中に修得しなければならない。これは、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業に必要な単位の合計が102以上なければならないので充分注意してほしい。この卒業研究着手条件は厳守され、例外はない。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活をおくるためには、3年次終了までに修得する単位総数が、卒業条件として有効な単位だけでなくとも120単位以上あることが望ましい。

4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実はどうもうまくゆかなくて、就職活動は2月、3年次の期末試験が終わるとすぐに始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生がたや先輩、両親等に早めに相談するとよい。

デザイナー、構造デザイナー、企業の研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期課程（修士）への進学を勧める。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。大学院進学は卒研指導の先生とできるだけ早く相談すること。ただし大学院進学希望者が一つの研究室に集中すると、一人の先生が指導できる大学院生の数は限られているから、その時点で進路の窓口が閉ざされてしまうことがある。建築教室内のこのような事情はクラス担任が一番正確に把握しているから、流言に惑わされず、クラス担任からの的確な情報を得るのがよい。卒業研究の研究室選択には、自分の専門を決める以外にもいろいろなファクターが関係する。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2、3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計

表1 4年次設置の専門教育科目の分類

環境・計画系		構造・材料・施工系	
設計演習	(2)	構造設計	(2)
建築経済	(2)	測量及び実習	(2)
建築計画	(2)	特別講義(木造建築論)	(2)
都市計画	(2)	構造デザイン	(2)
環境工学	(2)	構造解析法	(2)
建築設備演習	(1)	防災計画	(2)
特別講義(デザイン論)	(2)		
防災計画	(2)		
計 15単位		計 12単位	

(注)特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する。測量及び実習、構造デザインは計画系の学生にも必要な科目である。

表2 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験 (必修・1単位) (岡村)	化学実験(一般・化学教室) 物理実験(一般・物理教室) 専門実験 振動実験(石丸,白井,森泉,石垣) 構造強度(齋藤(公),岡村,黒木) 風洞・測定法(三橋,下村,広部/中山)
建築材料実験 (必修・1単位) (三橋)	セメント・コンクリート実験 (清水,中山,依田,飛内) 鋼材実験(平山,半貴,三橋,斉藤(俊))
建築環境実験 (必修・1単位) (井上,橋本)	騒音実験(井上,橋本,吉村,富田) 設備実験(早川,八町,蜂巣) 光実験(関口,橋本,富田)
建築構造実験 (必修・1単位) (齋藤(公),岡田)	構造安定実験(齋藤(公),岡田,中島) 構造部材実験(白井,森泉,清水(泰)) 土質実験(安達,山田) (いずれか一方を選択)

(注)各実験項目についての問い合わせは、各担当者の所属する研究室へ、実験項目の可否その他、総合的な質疑は各担当責任者に問い合わせる。

画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広く知識を求めるのが理想である。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、印の選択必修科目19科目以上を含むA系列選択科目50単位以上を含めて合計82単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業制作2単位、計6単位があるから、4年次で6単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件130単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が6単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、6+6=12単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、印の選択必修科目の中からA系列18科目以上、B系列11科目以上を含めて82単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自

のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマとも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

建築実験について

建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表2に示す。

建築設計の受講について

建築設計は～までが必修で、3年次後期の設計演習と4年次前期の設計演習は選択である。設計演習は、将来、主として設計(デザイン)方面に進む学生を対象とした課題のほかに、インテリアやCADに興味をもつ人を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

ただし、建築学科を卒業後、実務経験2か年を経て受験することのできる1級建築士資格試験の設計製図の課題内容は、大学で建築設計までを修得していれば充分対応できる。

- 建築設計の各科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。またデザイン基礎を、を修得しないで建築設計を、を、建築設計を、を修得しないで建築設計と設計演習を、そして建築設計と設計演習を修得しないで設計演習を受講することはできない。すなわち建築設計は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- その他、建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際、配布するパンフレット「建築設計の課題及び案内」に記載してある。
- 建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、5号館5階エレベータホールに掲示する。
- 本年度の建築設計関係科目の事務担当を表3に示す。

卒業研究について(各コース共通)

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおり。
卒業に必要な科目区別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科目区分ごとに、総合教育科目14単位、外国語科目10単位(英語6単位以上)、保健体育科目2単位、基礎教育科目16単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した

表3 平成14年度 建築設計担当者一覧

学年	科目	1組	2組
1 (船)	デザイン基礎 (必修)	(水) *柳田 武 大川 三雄 宇杉 和夫 渡辺 富雄 佐藤 直樹 近藤 康弘	(金) *石田 道孝 重枝 豊 今村 雅樹 赤羽 輝臣 八藤後 猛 横山 聡
	デザイン基礎 (必修)	(水) *柳田 武 田島 夏樹 本杉 省三 安田 博道 佐藤 直樹 葎内 博史	(金) *石田 道孝 内田 尚宏 宇杉 和夫 田中 雅美 八藤後 猛 中川 龍吾
2 (駿)	建築設計 (必修)	(月) *野村 歡 内田 尚宏 大川 三雄 城戸崎和佐 若色 峰郎 安田 博道 田島 夏樹 佐藤 慎也	(木) *宇杉 和夫 川口とし子 石田 道孝 中川 龍吾 本杉 省三 前田 光一 渡辺 富雄 渡辺 富雄
	建築設計 (必修)	(月) 赤羽 輝臣 *本杉 省三 奥田 孝次 宇杉 和夫 城戸崎和佐 杉 千春 佐藤 慎也 横山 聡	(木) 川口とし子 *今村 雅樹 河辺 哲雄 渡辺 富雄 桑原 立郎 近藤 康弘 渡辺 富雄 前田 光一
3 (駿)	建築設計 (必修)	(水) 河辺 哲雄 *若色 峰郎 椎名 英三 今村 雅樹 杉 千春 高宮 眞介 高橋 晶子 中村 弘道 佐藤 慎也	(金) 奥田 孝次 *本杉 省三 桑原 立郎 関澤 勝一 アトリッドクライン 佐藤 光彦 田中 雅美 葎内 博史
	設計演習 (選択)	(水) 関澤 勝一 椎名 英三 若色 峰郎 中村 弘道 佐藤 光彦 上利 益弘 TA	(金) *高宮 眞介 アトリッドクライン 今村 雅樹 高橋 寛 柳田 武 藤江 秀一 TA
院	建築デザイン (前期)	(土) *若色 峰郎 今村 雅樹	*根上 彰生 宇於崎勝也 嶋田 幸男
	建築デザイン (後期)	(土) *高宮 眞介 飯田 善彦	小泉 雅生 水谷 碩之

*科目担当 内 事務担当

○4年次設置の特別講義の構成について

特別講義は、高宮眞介教授の「デザイン論」と藤居秀男非常勤講師による「木造建築論」が併設されている。

高宮教授の「デザイン論」では、建築を設計する視点から、ルネッサンス以降、近現代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げて解説し、建築意匠を論ずる。特に、モダニズムの原点とその展開を概観するのが目標となっている。

一方の「木造建築論」の目指すところは、どのように建築をつくりあげるかという視点から、広く「木質構造建築」へアプローチする発想を養うことにある。わが国は伝統的に木造の国である。古来伝承されてきた構法に加えて、2×4構法(枠組壁構法)、丸太組構法、大断面集成材による大空間構法など、多様化する木質構造の本質に迫るのが本講座の目標である。

単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入しない。
この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成14年1月に

配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

卒業研究について

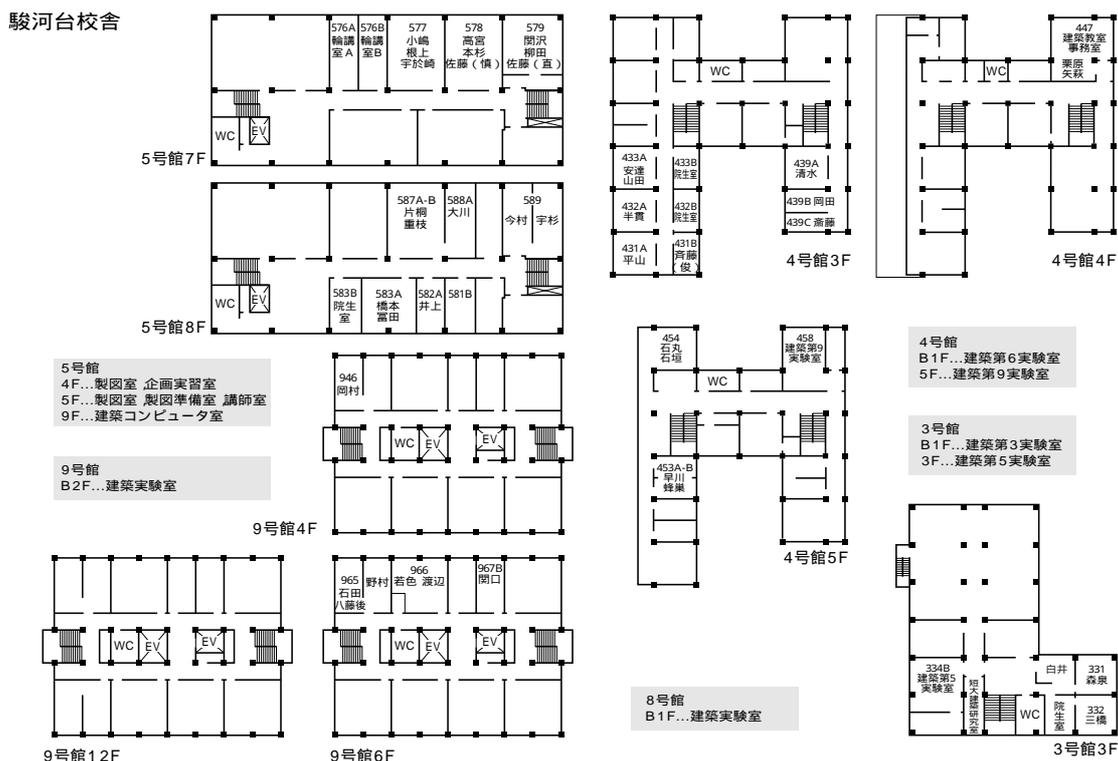
大学生活のしめくくりとして、卒業研究を通じて一人の先生と1年間ひとつのテーマで勉強することは、大学の専門教育のなかで最も意義あるもののひとつである。大学に入って1年、2年、3年、と多くの先生方の講義を聴くことによって、それぞれの先生のもの考え方を学ぶことは、もちろん、視野を広める上に有益なことであるが、大学生生活最後の仕上げの時期に膝を交えて先生と話し合うことのできる卒業研究は、勉強すること以外に人生に

関する諸問題も話し合える機会として、学生諸君にとって大切な場であると思う。したがって、建築教室としては、諸君の教育の仕上げの場として、卒業研究を最も大切な科目と考えていることを、まず念頭に置いてもらいたい。

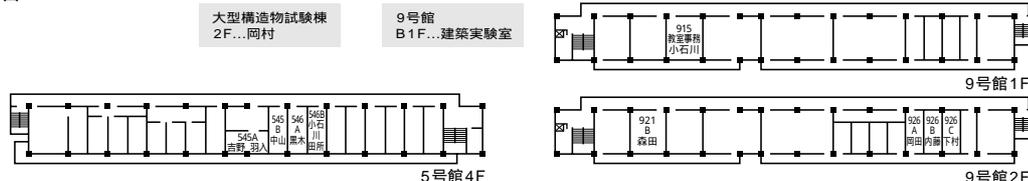
卒業研究着手の心がまえや手続きについてはクラス担任から詳しい説明があるが、卒業研究について先生には、勉強のことはもちろん、就職の問題、さらにまた将来は結婚の問題といろいろとお世話になるものであり、学生諸君はこの卒業研究を完成させる過程を経て、ほんとうに大学生生活を有意義に終わることができるものと考えている。

建築教室関連マップ

駿河台校舎



船橋校舎



短期大学部建設学科

平成14年4月

はじめに

建設学科における卒業最低条件は、表1に示す単位以上を修得しなければならない。

すなわち、表1に示すように総合教育科目から12単位以上、基礎教育科目から7単位以上、専門教育科目から36単位以上、科目の区分によらない任意の単位7単位以上を修得しなければならない。これは短期大学の教育理念が、完成教育を目指したもので、諸君の勉学が一方に偏らず、広く建築全般にわたって学修できるようにしたものである。学園生活全般にわたり不明な点がある場合は、クラス担任の諸先生(表2)に相談すること。

次に、以上の事柄について詳しく説明しよう。

総合教育科目・基礎教育科目

専門教育科目以外は、表3に示すように総合教育科目・基礎教育科目の2グループに分けられている。各グループの卒業に必要な条件は、総合教育科目から12単位以上、基礎教育科目から7単位以上、計19単位以上を修得しなければならない。なお、理工学部建築学科への編入学希望者は、物理実験・を履修すること。

専門教育科目

専門教育科目は、表4に示すように必修科目(5科目・7単位)、共通選択科目(18科目・30単位)、コース選択必修科目に大別される。ここで卒業に必要な条件は、必修科目7単位と共通選択科目および選択必修科目から29単位以上を修得しなければならない。また選択必修科目からは、それぞれのコースで決められた必修扱い科目を含めて10単位以上を修得しなければならない。

なお専門教育科目の卒業条件は、必修・選択科目を含めて36単位以上を取得しなければならないが、選択コース以外の設置科目も自由に履修することができる。また科目区分によらず、建築を学ぶ上で幅広い範囲にわたって各科目を履修することが望ましい。

特に、サマーセッション(夏季集中授業)として行う授業もあるので注意すること。

必修科目について

必修科目(表4上部:5科目)は、すべての単位を修得しなければならない。なお、ゼミナールを除き原則と

表1 卒業に必要な最低単位

総合教育科目		12
基礎教育科目		7
	小計	19
専門教育科目	必修科目(5科目)	7
	選択必修科目	29
	小計	36
科目区分によらない任意の単位		7単位以上
合計		62

表2 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)	E-mail(nihon-u.ac.jp)
1年	岩田 惇	大講堂体育館H	047-469(5298)	iwata@gaea.jcn.
	下村 幸男	926・C	047-469(5445)	shimo@arch.jcn.
	吉野 泰子	545・A	047-469(5479)	yoshino@arch.jcn.
	森田 吉晃	921・B	047-469(5480)	morita@civil.jcn.
	田所辰之助	546・B	047-469(5443)	tadokoro@arch.jcn.
2年	中山 優	545・B	047-469(5566)	nakayama@arch.jcn.
	黒木二三夫	546・A	047-469(5444)	kuroki@arch.jcn.
	羽入 敏樹	545・A	047-469(5479)	hanyu@arch.jcn.

してデザイン基礎、建築設計 および建築実験・は1年次において受講する。

1. デザイン基礎、建築設計

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるから、長時間の実技的な練習が必要である。そのためには、各課題を所定の時間内に確実に完了し、力量を積み重ねていかななければならない。

受講票は、建築設計専用の受講票を使用するが、これはガイダンスの際に配布するので、所要事項を記入し、写真を貼付して提出すること。

各課題については、中間指導日時、作品提出日時と指定の班別の担当師が課題別に発表される。中間指導は出題された課題について平面、断面などスケッチを提出して担当師の指導を受ける。

なお、病気、事故などで作品を提出できない場合は、提出日の前後1週間以内に理由書および診断書などを事務担当に提出し、その指示を受けること。また、建築デザインコースでは卒業制作は必修科目扱いとなる。

2. 建築実験

建築実験の内容を以下に示す。

- 建築実験 (i) 構造強度実験
(ii) 光・色の実験

- 建築実験 (i) 鋼材実験
(ii) 梁のたわみ実験
(iii) 建築に関する化学実験

学年初めに各担当師より詳細な説明が行われる。実験は重複しないように指定の班別を実施されるので、スケジュールに従って受講しなければならない。

合否は出席・レポートの考査により各実験別に採点し、全実験の総合的な評価によって判定される。なお、レポート受理の際には受領書を渡されるので、合否が判定されるまで保管すること。

やむを得ない理由等により所定の班および期日に受講できない場合は、事前もしくは直後に各実験担当師へすみやかに申し出て指示を受けること。なお、建築実験・は必修科目、建築エンジニアリングコースでは建築実

験（セメント・コンクリート、風洞）、建築実験（振動・騒音）は必修科目扱いとなる。

履修科目の登録単位数の上限について

前学期および後学期の1年間に履修する科目として登録する単位数は、サマーセッションの履修登録単位数を含め50単位以下でなければならない。

詳細についてはクラス担任の指導を受け、十分注意して履修計画をすること。

なお、他コース設置科目も自由に履修することができる。

表3 総合教育科目・基礎教育科目

	授業科目	単位	履修方法	
総合教育科目	A 人間と社会			
	哲学	2		
	哲学	2		
	倫理学	2		
	倫理学	2		
	国語表現法	2		
	国語国文学	2		
	法学	2		
	日本国憲法	2		
	経済学	2		
	経済学	2		
	社会学	2		
	社会学	2		
	体育・スポーツ科学	2		
	スポーツ	1		
	スポーツ	1		
	スポーツ	1		
	B 言語とコミュニケーション			
	英語講読	1		
	英語購読	1		
英語表現法	1			
英語表現法	1			
科学英語	1			
科学英語	1			
ドイツ語	1			
ドイツ語	1			
C 総合テーマ				
教養ゼミナール	2			
基礎教育科目	微分法	2		
	積分法	2		
	行列と行列式	2		
	線形代数	2		
	微分方程式	2		
	微分方程式演習	1		
	統計学	2		
	統計学演習	1		
	物理学	2		
	物理学	2		
	物理実験	1		
	物理実験	1		
	化学	2		
	化学	2		
	化学実験	1		
	化学実験	1		
	コンピュータリテラシ	1		
合計	65			

表4 専門教育科目

(コース必修科目扱い)

	1年次	単位	2年次	単位	履修方法	
必修	建築実験	1	ゼミナール	1		
	建築実験	1				
	デザイン基礎	2				
	建築設計	2				
共通選択	構造力学	2	特別講義	1		
	構造力学演習	1	海洋建築概論	2		
	建築材料	2	建築情報処理	1		
	一般構法	2	木質構法	2		
	建築計画	2	企画経営学概論	2		
	特別講義	1	福祉住環境概論	2		
	応用力学	2				
	応用力学演習	1				
	構造力学	2				
	構造力学演習	1				
	建築材料	2				
	建築計画	2				
	選択必修	工業数学	2	建築実験	1	
		情報処理	1	建築実験	1	
			応用力学	2		
			応用力学演習	1		
			構造力学	2		
			構造力学演習	1		
			建築施工法	2	エンジニアリングコース 選択科目	
			環境工学	2		
			環境工学	2		
			鉄筋コンクリート構造 土質及び基礎構造	2		
			コンピュータ支援構造解析	1		
			建築設備概論	2		
			構造設計法	2		
			鋼構造	2		
		振動工学	2			
合計	生活と住まい	2	卒業制作	2		
	建築史	2	建築設計	2		
	視覚伝達デザイン	1	建築法規	2		
			建築史	2		
			美術・様式史	2		
			空間デザイン	2	デザインコース 選択科目	
			デザイン・生産実習	2		
			建築メディアデザイン演習	1		
			建築設計	2		
			都市計画概論	2		
			デザイン論	2		
		インテリア計画	2			
		建築メディアデザイン演習	1			
合計	34	合計	62			

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
建築概論	つどいの空間	ドーム建築企画編集委員会	日本建築センター他	3,620 (税別)	書店
	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	空間体験 世界の建築・都市 デザイン	日本建築学会編	井上書院	3,000	書店
	建築への誘い	近江 栄, 宇野英隆編	朝倉書店	2,600	書店
建築の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,500	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,500	書店
	建築の構造システム	平山善吉監修	理工図書	4,660	書店
建築基礎実験・建築実験	建築実験法	建築系学科共著	彰国社	5,077	清水研究室(439-A)
応用力学	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	安達研究室(433-A)
	材料力学(上・中)	チモシェンコ原著 訳・鶴戸口英善, 他2名	東京図書	(上)2,500	書店
	材料力学(上・下)	訳・倉西正嗣, 他2名	裳華房	(上)3,500 (下)3,300	書店 書店
					書店
応用力学演習	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	安達研究室(433-A)
構造力学	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	齋藤公男(監訳)	丸善	2,884	書店
構造力学	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に案内
	骨組構造の解析	佐藤稔雄, 中村恒善	彰国社	5,356	書店
	耐震構造の設計	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	5,000	日本建築学会, 書店
	建築の構造とデザイン	齋藤公男(監訳)	丸善	2,884	書店
構造力学演習	建築構造力学演習(上,下)	齋藤謙次	理工図書	各1,750	ガイダンス時に案内
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計 学びやすい構造設計		技報堂	5,000	書店
鋼構造	鉄骨の設計	若林 実	共立出版	2,781	書店
	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,502	書店
	鋼構造設計演習	鋼材倶楽部	技報堂	4,429	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会編	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習 構造設計	建築物荷重指針・同解説	日本建築学会	日本建築学会	8,033	日本建築学会, 書店
	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	許容応力度設計法	日本建築学会	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会	日本建築学会	3,360	日本建築学会, 書店
構造デザイン	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛他	彰国社	2,500	書店
	建築の構造とデザイン	齋藤公男(監訳)	丸善	2,884	書店
	柱のない空間 スポーツ・イベント・ 展示ホール	日本建築学会	彰国社	1,900	齋藤研究室(439-C)
	つどいの空間 ドーム建築のデザインと技術	ドーム建築企画編集委員会	日本建築センター他	3,620 (税別)	書店

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
構造解析	建築技術者のための有限要素法入門	佐藤稔雄編著	理工図書	2,884	書店
振動工学	構造物の動的解析	石丸辰治	石丸研究室	2,000	石丸研究室(454)
耐震構造	構造物の動的解析 Part	石丸辰治	石丸研究室	1,500	石丸研究室(454)
建築材料()()	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,900	清水研究室(439-A)
建築施工法, 建築積算	施工・見積	加藤賢三, 他 2	彰国社	4,980	半貫研究室(432-A)
一般構法	図説テキスト建築構造(構造システムを理解する) 構造用教材	日本建築学会	彰国社	2,600 (税別)	書店
			日本建築学会	1,854	書店
一般構法	建築構法 建築の構造システム	内田祥哉 平山善吉, 他 4	市ヶ谷出版	2,800	書店
			理工図書	4,800	書店
地盤基礎工学	建築基礎工学 建築基礎構造設計指針 (2001改定)	山肩邦男 日本建築学会	朝倉書店	4,800	書店
			日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武他	彰国社	3,000	書店
デザイン基礎	建築設計教室 建築デザインの製図法から簡単な設計まで 新訂建築製図	勝又, 宮下, 本杉 武者英二, 永瀬克己 日本建築学会	彰国社	3,000	書店
			彰国社	2,369	書店
			彰国社	1,648	書店
建築計画	建築計画ノート	宮川英二	理工図書	2,884	書店
建築計画	建築計画	宮川英二, 関澤勝一 他	理工図書	3,260	書店
建築計画	設計方法 設計方法論 設計方法 設計方法と設計主体 デザインの鍵 設計方法論 建築・都市計画のための空間学事典 建築・都市計画のための調査・分析方法	日本建築学会 建築計画委員会 設計方法小委員会	彰国社	1,957	書店
			彰国社	2,400	書店
		丸善	2,200	書店	
			丸善	2,900	書店
		井上書院	3,605	書店	
		井上書院		書店	
建築計画	日本住宅の空間学 新建築学大系・23 建築計画	宇杉和夫 原 広司, 鈴木成文他	理工図書 彰国社	3,200 5,562	宇杉研究室(589) 書店
建築計画	高齢者・障害者の住まいの改造とくふう 建築設計資料14 心身障害者福祉施設設計計画パンフレット「ハンディキャップ者配慮の設計資料」	野村 歡 野村 歡 日本建築学会	保健同人社	2,730	書店
			建築資料研究社	3,500	書店
			彰国社	2,266	書店

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
都市計画	都市の計画と設計 都市計画第4版	小嶋勝衛監修 日笠 端・日端康雄	共立出版 共立出版	未定 3,885	4月刊行予定 書店
	日本近代都市計画の 百年	石田頼房	自治体研究社	2,548	書店
	「都市計画」の誕生	渡辺俊一	柏書房	3,600	書店
	都市の計画と設計 都市の景観	小嶋勝衛監修 G.カレン 北原理雄(訳)	共立出版 鹿島出版会 (SD選書)	未定 1,890	4月刊行予定 書店
都市計画	新しい都市デザイン	J.Jバーネット 倉田直道・洋子(共訳)	集文社	3,675	書店
	建築法規及び行政 短大建築法規	基本建築関係法令集 上巻(法令編)	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	2,800
建築法規用教材		日本建築学会(建築法制 委員会)編	日本建築学会	1,900	書店
建築史概論	西洋建築様式史図集	太田静六	理工図書	2,300	書店
	西洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,575	書店
建築史	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	建築史研究室(587-A,B)
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,884	書店
建築史	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,200	建築史研究室(587-A,B)
	日本の近代建築 (上,下)	藤森照信	岩波新書	各620	書店
	図説 近代日本住宅 史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,200	書店
	建築モダニズム 近代和風を探る (上,下)	大川三雄 他 大川三雄 他	(株)エクスマレッジ (株)エクスマレッジ	3,000 各1,400	書店 書店
建築史	東洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	3,193	建築史研究室(587-A,B)
環境工学	建築音響と騒音防止 計画	木村 翔	彰国社	3,420	井上研究室(582-A)
	建築環境工学用 教材:環境編	日本建築学会編	丸善	1,900	書店
環境工学	建築環境工学[改訂 2版]	田中俊六・武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 (環境編)	日本建築学会	日本建築学会	1,854	書店
環境工学	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会編	技報堂出版	4,635	井上研究室(582-A)
	建物の遮音設計資料	日本建築学会編	技報堂出版	4,944	書店
建築設備	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内
	環境工学用教材 (設備編)	日本建築学会編	日本建築学会	1,900	書店
	空気調和設備の実務 の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,350	書店
	衛生・給排水設備の 実務の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,330	書店
測量及び実習	暮らしの技術として の建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	3,950	書店
	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建設学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
建築実験	建築実験法		彰国社	4,980	黒木研究室(546-A)
デザイン基礎	新版・新しい建築製図 コンパクト建築設計資料集成 住居	新版・新しい建築製図編集委員会編 日本建築学会編	学芸出版社 丸善	2,100 6,901	小石川・田所研究室(546-B) 書店
応用力学	建築材料力学 建築応用力学	榎並 昭 小野 薫, 加藤 渉	彰国社 共立出版	2,783 2,310	ガイダンス時に指示
応用力学演習	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭 西村敏雄	共立出版 理工図書	2,206 4,935	ガイダンス時に指示 ガイダンス時に指示
構造力学	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に指示
構造力学演習	建築構造力学演習(上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,750	ガイダンス時に指示
構造力学	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に指示
構造力学演習	建築構造力学演習(下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,750	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	中山研究室(545-B)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,781	岡田研究室(926-A)
構造設計法 構造設計演習	わかりやすい鉄筋コンクリート構造の設計 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	藤田 幹, 内藤正昭 日本建築学会編	理工図書 日本建築学会	3,400 5,974	内藤研究室(926-B) 書店
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
建築計画	建築計画 1	岡田光正 他	鹿島出版会	新版のため未定	小石川・田所研究室(546-B)
建築計画	建築計画 2	岡田光正 他	鹿島出版会	新版のため未定	小石川・田所研究室(546-B)
環境工学	建築環境工学用教材・環境編 建築音響と騒音防止計画 建築気候	日本建築学会編 木村 翔 斎藤平蔵	日本建築学会 彰国社 共立出版	1,854 3,420 3,090	吉野・羽入研究室(545-A)
建築法規	建築基準法法令集	オーム社編	オーム社	1,000	書店
都市計画概論	都市計画	日笠 端	共立出版	3,500	横内研究室(237-B)
建築史	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	小石川・田所研究室(546-B)
建築史	西洋建築史図集 図説 近代建築の系譜	日本建築学会編 大川三雄 他	彰国社 彰国社	2,575 3,200	小石川・田所研究室(546-B) 小石川・田所研究室(546-B)
建築設備概論	建築設備概論 環境工学用教材(設備編)	吉田 燦 日本建築学会編	彰国社 日本建築学会	4,200 1,854	545-A 室
空間デザイン	建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,625	黒木研究室(546-A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉, 他 4 名	理工図書	4,800	内藤研究室(926-B)
建築材料	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,900	建築教室事務室(915)
建築施工法	最新 建築施工法(10版)	鯉田和夫 他	技報堂出版	未定	建築教室事務室(915)
情報処理, 建築情報処理	FORTRAN 77 プログラミング入門からグラフィックスまで	川崎, 他共著	培風館	1,980	書店

平成13年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

平成14年3月

概況

社会の大きな流れの中で就職戦線は一段と早まり、すでに佳境に突入している。平成13年度を振り返って見ると、求人数の減少から就職状況が大変厳しいものであることが感じられた。しかしながら、全体としての就職率は住宅関係を中心として前年度より向上し、明るい兆しも見えている。一方、大学院生の内定率は落ち込んでいるが、設計事務所など、在学中のアルバイトなどによる社会との繋がりを通して就職している例も少なからず、表に出にくい事例も昨今を反映している。

高度情報化の波は就職戦線にも現れており、早まる求人の動きに対応したインターネットの活用は必修条件となってきた。建築分野では住宅産業を中心に、自由応募による活発な求人活動が展開されているのは周知の事実である。求人は一度には採用せず、当初から会社説明会を複数回設定し、きめ細かく人選しながらその都度採用を決定しており、その分、内定も早まっている。一方で企業間の競争も激しく、一部に繋ぎ止めを見据えた学校推薦を併用する動きも見えている。

大手ゼネコンは従来の学校推薦によるシステムを採用しているが、求人数を縮小しながら採用時期を早めている。しかしながら合否の結論は早くなり、就職希望者にとっては受けやすい環境になってきている。また、学校推薦といえども、リクルーターを通して企業側自身で選抜した

表 - 1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成13年度				平成12年度		
	学部	大学院		学部	大学院		
		建築	不動産		建築	不動産	
就職希望者数	355(86)	56(7)	12(1)	229(69)	62(12)	8(1)	
就職内定者数	211(52)	29(4)	8(1)	179(55)	45(8)	8(1)	
大学院進学者数(留学希望・その他含)	95(23)	6(0)	2	75(18)	4(2)	0	
就職・進学者数	306(75)	35(4)	10(1)	254(73)	49(10)	8(1)	
求人会社数	889			1,519			

いという意志が強く、学生本人による事前の積極的な意思表示がないと採用には結びつかない。

不況とはいいいながら求人が止まるわけではない。このような時期においてはむしろ、企業にとってメリットのある人材を確保することが目標にあるので、大いに挑戦してほしい。面接にあたっては、服装や言葉づかいなどきめの細かい配慮をするような慎重さと、青年らしく誠実で、自分の意志がはっきり相手に伝わるような積極性をもって臨むことが大切と思われる。

求人会社の状況

初めに、本年度の就職内定状況を昨年の同時期と比較して表 - 1 に示す。前年度と比較して就職希望者数や内定者数にも増加は見られたが、求人会社数に関しては大幅な減少(1,519社 > 889社)となっている。それでも、一昨年(620社)に比較

すればまだよいほうかもしれない。求人会社数の減少の主な内容は、コンピュータ・情報関係(389社 > 128社)と製造業・営繕・その他(582社 > 220社)で目立ったが、建設業や設備、設計事務所に対する

表 - 2 月別求人件数 注:再募集は除く

	平成13年度	平成12年度
1月	8	7
2月	143	19
3月	302	323
4月	160	290
5月	87	248
6月	90	164
7月	41	165
8月	16	65
9月	31	86
10月	8	46
11月	0	37
12月	0	40
1月	0	27
2月	3	2
合計	889	1,519

表 - 3 求人・内定者の内訳

	求人会社数				内定者数								内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	62	58	46	166	2(3)	4	(1)		1(1)		35(5)	4	11.4
B 住宅・不動産	19	36	11	66	7(19)	3	3(7)	3	9(3)		11(29)	6	36.4
C 設備	24	21	12	57	1(2)		2(1)				12(3)		3.5
D 設計事務所・インテリア	13	29	52	94	4(1)	1		2	13(8)	2	17(9)	5	6.5
E 建材・エンジニアリング	17	19	10	46	4	2	7(3)	1(1)		1(1)	11(3)	4(2)	4.4
F コンピュータ・情報	38	54	36	128	1		1	1(1)	1	1	3	2(1)	1.5
G 製造業・営繕・その他	112	87	21	220	6(1)	5			2(1)		8(2)	5	3.8
小計				777	13(26)	15	4(12)	7(2)	2(13)	4(1)	20(51)	2(3)	67.4
H 官公庁・大学				87							5(1)	2	2.1
法人				25							2		0.6
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)											95(23)	6	29.6
J 自営業												1(1)	0.3
総計				889							30(75)	35(4)	100.0
											34(79)		

以下の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業...従業員500名以上，中企業...従業員100名以上，小企業...従業員99名以下，()内は女子内数，求人会社数...再募集は除く。

求人会社の減少数は最小限で収まっている。その中において、住宅産業は若干増加をしていたのが特徴であった。

求人の時期に関しては、表 - 2 に月別求人件数を示す。建築学科の求人申し込みは、ここところ3月に集中(302社)している。平成12年度は求人のピークは3月～7月であったが、13年度は2月～6月に早まり、7月以降での求人は大幅に減少する傾向が見られた。この傾向は今年も見られるので、あまりのんきに構えてはいけな。特に組織設計事務所や大手ゼネコンは早まっているので、注意が必要である。

就職内定者の内訳

内定者数の傾向は建設業が減少し、住宅関係が増加している。特に住宅産業は進学者を除く内定者の内訳では42%に達し、求人数の動向を反映しているものであるが、営業に携わった卒業生に転職が目立つのも気に

なるところである。

平成13年度の就職状況を見ると、長引く不況の中ではあるが、大手企業には少数精鋭の人材を確保したいという狙いが見える。一方、地方の堅実な中規模のゼネコンは、時期をずらしながらも優秀な人材を求めて人事の方が就職の窓口を訪れる姿も目についたが、その数は必ずしも多くはなかった。また、昨年圧倒的な伸びを見せたコンピュータ・情報関係の求人も、以前ほどではないにしても急速に落ち込んでいる。このように景気に左右されやすい業種、されにくい業種があるので、目先の動きにとらわれず、本当に自分がやりたいのは何かをしっかりと見定めて、堅実な就職活動を心掛けるべきである。

平成14年度の就職戦線へ向けて就職協定が外されてから数年経過し、年々就職活動の山が前倒しになってきている。それに伴い大学への

求人も早まっている。不況の折でもあるので、もしかしたらわが社にもきてくれるかもしれないという熱心な地方の人事の方が就職事務室を訪れる場合も多い。いわゆるUターンもひとつの選択肢として考えてみてもよいと思われる。これらの企業からの求人は、人数を指定して学校推薦を依頼してくるだけでなく、自由応募も多い。これらの就職情報は建築学科からの採用を積極的に求めているわけで、それだけ就職のチャンスも多い。しかし、これに対して皆さんからのアプローチが少なく、これらの情報が充分伝わっていないような気がする。学校推薦の手続きと制約に気後れせず、積極的に行動してください。

平成14年度の就職戦線は、依然として厳しい状況が予想される。また、国家公務員、地方公務員、大学院進学など大きな選択肢があるが、将来を大きく変えることになるので、それらを視野において臨んでいただき

たい。なにか迷いがあれば、早めに
研究室の先生とも相談しながら各自
でも情報を収集し充分対策を立てて

望むべきである。企業の知名度や規
模にこだわらず、自己の能力を発揮
できる企業を選択するのが肝要であ

る。
(平成13年度就職担当 教授・関口克明)

表 - 4A 就職先の内訳 建設

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
竹中工務店	1								1	0	ナカノ・コーポレーション								1(1)	1(1)	0
清水建設	2				1(1)				3(1)	0	長谷工コーポレーション	1		1					1	3	0
鹿島建設	1	1							1	1	大鉄工業	1								1	0
大成建設	1		1		1				3	0	鉄建建設			1					1	2	0
大林組	1								1	0	勝村建設	1(1)								1(1)	0
戸田建設	3	2							3	2	福田組							1	1	0	
西松建設	2				1				3	0	新日本建設							2	2	0	
ハザマ		1							0	1	北信土建							2(1)	2(1)	0	
飛鳥建設	1								1	0	横河工事	1								1	0
浅沼組							1		1	0	松下産業							1	1	0	
穴吹工務店							2		2	0	陰山建設						1(1)		1(1)	0	
総計	16(1)	4	3	0	4(2)	0	12(2)	0	35(5)	4											

表 - 4B 就職先の内訳 住宅・不動産

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
積水ハウス			1				7(1)	1	8(1)	1	セキスイコーホーム東京								1	1	0
旭化成ホームズ	1(1)						10(3)		11(4)	0	東京ガス都市開発									1	0
大和ハウス工業	1(1)						11(1)		12(2)	0	アイフルホームテクノロジー								1(1)	1(1)	0
住友林業							4(1)		4(1)	0	ミサワホーム静岡								1	1	0
ミサワホーム							1	1	1	1	信州ミサワ		1							1	0
大東建託							2(1)		2(1)	0	信州ミサワホーム	1								1	0
三井ホーム							6(2)		6(2)	0	パナホーム千葉								1	1	0
トステム			1(1)				6(3)		7(4)	0	パナホーム茨城								1(1)	1(1)	0
スターツ							2		2	0	神奈川セキスイハイム								2	2	0
リクルートコスモス							1		1	0	ミサワホーム福島								1	1	0
一条工務店							6(1)		6(1)	0	ダイナシティ								2	2	0
富士ハウス							4(1)		4(1)	0	トヨタホーム名古屋								1	1	0
ペイントハウス							2(1)		2(1)	0	興和不動産									1	0
三井不動産住宅サービス							2		2	0	東栄住宅								1	1	0
東京ミサワホーム							2		2	0	島村工業								1	1	0
住友不動産建物サービス							1		1	0	積和不動産中部								1(1)	1(1)	0
住友不動産販売							1(1)		1(1)	0	ハウジング恒産								1	1	0
扶桑レクセル							1		1	0	三浦工務店						1			1	0
中央住宅							1		1	0	NSK								1	1	0
レオパレス21							1		1	0	ジェイ・エス・ピー								1	1	0
飯田産業							2(1)		2(1)	0	ユナイテッド不動産								2(1)	2(1)	0
アットホーム							1		1	0	野村土地建物								1	1	0
MMSマシソンサポートサービス								1	0	1	センチュリー21オーブハウス								1(1)	1(1)	0
千葉セキスイハイム							3		3	0	神奈川西パナホーム								1	1	0
東急ホーム							3(2)		3(2)	0	天草産業								1	1	0
ゴールドクレスト							2		2	0	ジェイホーム								1(1)	1(1)	0
千葉ミサワホーム							2(1)		2(1)	0	HUSER								1	1	0
野村ホーム								1	0	1	フルハウス								1	1	0
三菱地所ホーム							1		1	0											
総計	3(2)	0	3(1)	0	1	0	11(26)	6	11(29)	6											

表 - 4C 就職先の内訳 設備

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
タカスタンダード	1						1(1)		2(1)	0	三菱電機ビルテクノサービス								1		1	0
大気社	1								1	0	川崎設備工業								1(1)		1(1)	0
ダイダン	1								1	0	キャッツ								1		1	0
新菱冷熱工業							1		1	0	セック								1		1	0
新日本空調							1		1	0	三冷社								1(1)		1(1)	0
東洋熱工業	1								1	0												0
総計	4	0	0	0	0	0	0	0	8(3)	0	12(3)	0										

表 - 4D 就職先の内訳 設計事務所・インテリア・コンサルタント

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
桂設計				1					0	1	西日本技術開発						1				1	0
佐藤総合計画	1								0	1	荒井設計								1(1)		1(1)	0
三井ホームデザイン研究所							1		1	0	つくば建築設計事務所								1(1)		1(1)	0
佐々木建築構造計画研究所							1		0	1	田村設計								1		1	0
バルコスペースシステムズ							1		0	1	三輪設計事務所								1		1	0
前川建築設計事務所							1		0	1	プレスキット								1(1)		1(1)	0
丹青社							1(1)		1(1)	0	こうへい企画						1(1)				1(1)	0
乃村工芸社							1		1	0	クラスト								1		1	0
船場							1		1	0	村井敬合同設計								1(1)		1(1)	0
協立建築設計事務所	2(2)								2(2)	0	リライнс								1(1)		1(1)	0
椎名英三建築設計事務所							1		1	0												0
総計	2(2)	1	0	1	1	0	0	0	13(6)	3	17(9)	5										

表 - 4E 就職先の内訳 建材・エンジニアリング

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
新日軽							1		0	1	フジモリ産業								1		1	0
日東紡管エンジニアリング							1(1)		0	1(1)	エーエス			1(1)							1(1)	0
大建工業							1	1	1	1	ライズ								1(1)	0	1(1)	0
小松ウォール工業							1		1	0	本久								1		1	0
高橋カーテンウォール工業							2(2)		2(2)	0	スガツネ工業								1		1	0
三協アルミニウム工業							1		1	0	江間忠木材								1		1	0
大仙							1		1	0												0
総計	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	10(2)	4(2)	11(3)	4(2)										

表 - 4F 就職先の内訳 コンピュータ・情報

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
日立エイチ・ピー・エム							1		1	0	情報システムエンジニアリング								1		1	0
構造ソフト							1		0	1	ティー・シー・エフ								1		1	0
エヌ・ティ・ティシステム技研							1(1)		0	1(1)												0
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2(1)	3	2(1)										

表 - 4G 就職先の内訳 製造業・営繕・その他

注：欄は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
東日本旅客鉄道							1(1)		1(1)	0	有線ロードネットワークス								1		1	0
東京電力		2							0	2	日本マクドナルド								1		1	0
三井造船	1									1	0	大和工商リース							1		1	0
西武鉄道								1	0	1	山善								1		1	0
京王電鉄								1	0	1	市川甚商事								1(1)		1(1)	0
ソニーマーケティング								1	0	1	スタジオ38								1		1	0
総計											1	2	0	0	0	0	0	0	7(2)	3	8(2)	5

表 - 4H 就職先の内訳 官公庁・法人

注：欄は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計			
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		
東京消防庁							1		1	0	秩父市役所								1		1	0	
新潟県庁							1		1	0	御殿場市役所								1(1)		1(1)	0	
埼玉県警察本部							1		1	0	建築・設備維持保全推進協会			1							1	0	
柏市市役所								1	0	1	千葉市住宅供給公社									1		1	0
町田市役所								1	0	1	総計	0	0	1	0	0	0	0	8(1)	2	7(1)	2	

表 - 4I 就職先の内訳 進学

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
日本大学大学院	6(15)	1	6(15)
東京工業大学大学院	2		2
東北大学	3		3
法政大学	1		1
桑沢デザイン研究所	1		1
道灌山学園保育福祉専門学校	1(1)		1(1)
東映アニメーション研究所	1		1
Space Design College 池袋校	1		1
Santa Ana College	1(1)		1(1)
留学希望	2(1)		2(1)
その他	1(5)	5	21(5)
総計	9(23)	6	10(23)

表 - 4J 就職先の内訳 自営業

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
住宅・不動産		1(1)	1(1)
総計	0	1(1)	1(1)

表 - 5 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	26	7	33	14.3
研究室推薦	7	1	8	3.5
縁故推薦	7	0	7	3.0
自由応募	164	18	182	79.1
総計	204	26	230	100.0

注：官公庁，法人，大学院進学，自営業を除く

平成14年度の就職活動に向けて

すでに始まっている就職戦線ですが、相変わらず建設業界は大変厳しい状況にあります。昨年と同様に求人が早まっており、3月中に推薦を希望した企業もいくつか出ております。人事の担当者は異句同様に“わが社を理解し、積極的に貢献してくれる学生”を希望しており、適性検査の結果を前提としながらも、面接に重点を置いている様子もうかがえます。大学のほうに求人がきている場合でも、ネットその他による本人からの応募が主である場合が多くなってきました。大手企業にとらわれることなく、自分の適性を見極め、積極的に行動して情報収集に当たってください。また、建設関連でなくともユニ

ークな会社からの求人もありますので、仕事の内容を広い視野の下で見て、選択肢を広げること時には必要です。

就職試験対策にも万全を期してください。専門知識はもちろんですが、面接やSPI（適性テスト）も訓練である程度コツがわかります。多くのリクレーターが話されるのは、バイタリティーがあって、適応能力の高い人物という希望が高いようです。自分の長所短所をわきまえ、セールスポイントを売り込めるような配慮が必要です。

研究室の先生や、就職を担当する私のほうに相談しながら、この荒波を乗り越えていってください。（就職担当 教授・石丸辰治, 研究室454, Tel: 03-3259-0720）

平成13年度各賞受賞者一覧

優等賞

8170 高梨美奈子 (安達研究室)	8007 厚見麻里子 (安達研究室)	0049 黒木南々子 (短期大学部)
8118 小林 卓哉 (野村研究室)	8162 関口 洋平 (斎藤研究室)	0098 南雲 幸子 (短期大学部)
8176 高橋 令奈 (斎藤研究室)	8003 青木 貴雄 (清水研究室)	0014 岩崎 七菜 (短期大学部)
8174 高橋 奈美 (井上研究室)	8172 高橋 克彰 (斎藤研究室)	0105 林部 豊 (短期大学部)
8278 三木 良太 (斎藤研究室)	8008 安部香菜子 (早川研究室)	

齋藤賞

M-0003 飯山 千里 「野毛山動物ミュージアム 小規模動物園の自然学習拠点としての再生」	指導：高宮眞介教授
M-0051 酒匂 教明 「仮動的実験法を用いた多方向せん断を受ける飽和砂地盤の地震応答特性に関する研究」	指導：安達俊夫教授

駿建賞

M-0004 井口 雅登 「建築物内の無線LAN通信性能に関する実験的研究」	指導：井上勝夫教授
M-0029 十文字 健 「東京都品川区立小学校における特色ある学校づくり推進を意図した学校選択制度の評価に関する研究」	指導：関澤勝一教授
M-0024 黒川 泰孝 「Tokyo Arts and Disability Center 障害者芸術活動の拠点施設を核とした美術館の設計」	指導：高宮眞介教授

駿構賞

M-0037 寺崎 寛 「等価線形化法による簡易な液状化解析に関する研究」	指導：安達俊夫教授
M-0045 藤田 敬 「高靱性材料を用いた部材のFEMによる性能評価に関する実証的研究」	指導：白井伸明教授
M-0007 石鍋雄一郎 「層間変形レベルのP- 効果と鋼構造物の弾塑性応答の関連性について」	指導：半貴敏夫教授

桜建賞

卒業研究	8061 大橋 美和 8226 芳賀 宣則 8243 原田美沙子 8283 宮川 みお 8294 森成 浩史 「乳幼児を対象とした身体計測装置の開発とデータ収集による建築安全計画への考察 乳幼児の家庭内事故防止に関する研究」	指導：野村勲教授，八藤後猛助手
	8001 相澤総一郎 8005 麻生 真司 8084 柿沼 康祐 8187 武井美奈子 「東京23区における区立小中学校の統廃合による学校跡地活用の実態に関する研究」	指導：小嶋勝衛教授，根上彰生助教授，宇於崎勝也専任講師
	8241 原 寛武 8056 大島 義清 「円形せん断土槽を用いた地盤の液状化実験に関する研究」	指導：安達俊夫教授，山田雅一助手
	8278 三木 良太 8157 鈴木 晴信 8297 柳井 麻里 「高ライズネット補強空気膜構造の適用性に関する研究 東京建築展2001 避難シェルターの構造設計を通じて」	指導：斎藤公男教授，岡田 章専任講師
卒業制作	8063 大平 貴臣 「Depark」	正指導：今村雅樹助教授，副指導：関口克明教授
	8127 後関 孝啓 「Spread Structure fixed by one bolt」	正指導：斎藤公男教授，副指導：若色峰郎教授
短期大学部 卒業制作	0060 櫻澤 拓也 「明日にかける橋」	指導：小石川正男 (短大) 教授，濱寄良実 (短大) 非常勤講師
	0098 南雲 幸子 「匠に集う」	指導：小石川正男 (短大) 教授，濱寄良実 (短大) 非常勤講師

奨励賞

修士論文	M-0018 加々良昌史 「普通鋼を用いた大振幅弾塑性ダンパーに関する研究」	指導：石丸辰治教授
	M-0031 鈴木 清久 「光環境からみた夜間街路の空間構成に関する研究」	指導：関口克明教授
卒業制作	8238 林 義尚 「交通博物館の再生」	正指導：若色峰郎教授，副指導：岡田 章専任講師

齋藤賞 修士設計



野毛山動物ミュージアム 小規模動物園の自然学習拠点としての再生 / 飯山千里

駿建賞 修士設計



Tokyo Arts and Disability Center 障害者芸術活動の拠点施設を核とした美術館の設計 / 黒川泰孝

企画奨励賞*1

8073 小川 啓輔 8084 柿沼 康祐 8187 武井美奈子「上野再生計画 Project Redevelopment of Ueno Station」

指導：根上彰生助教ほか

駿建コンペティション業績賞*2

M-0003 飯山 千里

所属：高宮研究室

桜工賞

M-0036 田邊 雅則 日本建築士会連合会主催懸賞設計競技「ラディカル コンビニ ファシリティ」・奨励賞，建築学会関東支部主催第1回提案競技「美しくまちをつくる，むらをつくる」・明野町長賞，同・第2回・優秀賞を受賞し，本学の名を高めた。

所属：小嶋研究室

M-0045 藤田 敬 コンクリート工学年次大会2001（札幌）において「非線形FEMによるRC造耐震壁（CUMUS 3）の地震応答解析」と題する論文を発表し，第23回コンクリート工学講演会「優秀講演賞」を受賞した。

所属：白井研究室

8272 松原 壮馬 理工学部ハンググライダー部部員として1年次から4年次まで活動し，個人競技の活躍と実行力が評価され，第16回PINK CUP（全日大）の大会実行委員長として大会を運営した。

所属：岡村研究室

8315 米嶋 隆彦 理工学部の剣道部部員として日本大学体育大会剣道競技会で優秀新人賞（1999年），4年次には理工学部剣道部主将・桜工剣道部の副主将として団体活動をまとめた。

所属：岡村研究室

8150 菅谷伊佐央 過疎地域の草刈り&道作りボランティア，アフリカへ毛布を送る運動，アフガニスタン難民救援募金，ユニセフ募金などの，日本国内にとどまらず世界的に幅広いボランティア活動を通し，自己啓発とともに社会に貢献している。

所属：平山研究室

8122 小峰 裕 平成13年度建築学科卒業アルバムの製作委員のまとめ役（幹事）として活動した。

所属：石田研究室

8018 五十田昇平 平成12年度の学部祭における建築展実行，建築講演会実行の代表者として活動した。

所属：高宮研究室

0024 大塚 綾乃 オープンキャンパスにおける学科展示物作成の功績

短期大学部

0054 後藤菜津子 オープンキャンパス，入試フォーラム等の本学広報活動への協力・貢献

短期大学部

0123 黛 直矢 オープンキャンパス等の学内行事のリーダー役としての功績

短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*3

M-0005 内山 貴信「沿岸域における環境事業のPFI導入の可能性に関する研究 建築物等の建設にともなう法規制の緩和を中心として」

指導：横内憲久教授

M-0008 尾製斗啓介「不動産証券化による地方自治体所有不動産の活用可能性に関する研究」

指導：小嶋勝衛教授，根上彰生助教，宇於崎勝也専任講師

日本環境管理学会・木村賞*4

M-0004 内田 貴裕「環境からのまちづくりに関する研究 大都市における生物多様性を促す都市計画手法の検討」

指導：横内憲久教授

*1 建築学科企画経営コースのOBで構成される「企画経営コース同窓会」からの基金により，卒業企画設計の優秀作品に贈られる。

*2 近江栄名誉教授より寄贈された基金による。

*3 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に，平成8年度で定年（H10.3.1 死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金，平成11年度で定年となった浅香勝輔非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え，不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

*4 日本環境管理学会名誉会長木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により，大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成7年度新設，旧・日本環境管理学会会長賞）

平成13年度修了生・卒業生 就職先・研究課題一覧

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
安達俊夫教授				・建築学専攻・
D-0006	有泉 浩蔵	東京電力(株) (社会人大学院)	大規模円形自立山留め架構の設計手法に関する研究	
齋藤公男教授				・建築学専攻・
D-9002	田畑 博章	(株)大林組 (社会人大学院)	テンセグリック・トラス構造の基本力学性状に関する研究 初期張力を考慮した2層ケーブル方式について	
野村 勲教授				・建築学専攻・
D-9004	村井 裕樹		高齢者保健福祉施設における火災時の避難安全に関する研究	

大学院博士前期(修士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
安達俊夫教授				・建築学専攻・
M-0037	寺崎 寛	柏市役所	等価線形化法による簡易な液状化解析に関する研究	
M-0042	幡野 祐輔	鹿島建設(株)	直接基礎のための締固め砂杭による改良地盤の荷重-沈下特性に関する研究	
M-0051	酒匂 教明	日本大学大学院 博士後期課程	仮動的実験法を用いた多方向せん断を受ける飽和砂地盤の地震応答特性に関する研究	
石丸辰治教授				・建築学専攻・
M-0018	加々良昌史	野村ホーム(株)	普通鋼を用いた大振幅弾塑性ダンパーに関する研究	
井上勝夫教授・橋本 修専任講師				・建築学専攻・
M-0004	井口 雅登	東京電力(株)	建築物内の無線LAN通信性能に関する実験的研究	
M-0021	金光麻希子	日東紡音響エンジニアリング(株)	残響音場における拡声音の定位方向を考慮した音声情報伝達に関する検討	
片桐正夫教授				・建築学専攻・
M-0009	稲村 周子		建築家・石原憲治の建築思想と「農民建築」に関する史的考察 近代日本の建築界における創生期の民家研究とその意義	
小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於崎勝也専任講師				・建築学専攻・
M-0017	小野 慎吾		震災時の都市農地の活用可能性に関する研究 都市の防災性向上に着目して	
M-0030	杉山 康隆	興和不動産(株)	東京都国分寺市高木地区における地区防災計画に関する研究 重量塀の改善策(塀づくり憲章)に着目して	
M-0036	田邊 雅則	京王電鉄(株)	東京都千代田区におけるファミリー世帯層の定住に資する住環境整備に関する研究	
齋藤公男教授・黒木二三夫(短大)助教授・岡田 章専任講師				・建築学専攻・
M-0032	鈴木 健	(株)佐々木睦朗構造計画 研究所	リブガラス構法の構造設計手法に関する基礎的研究	
M-0034	高田 雄一	(株)佐藤総合計画	ばねストラット式張力膜構造の構造挙動に関する数値解析的検討	
M-0046	星野 雅大	(株)桂設計	間伐材の軸力構造への適用性に関する研究	

清水五郎教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0012 王 輝 ライズ(株) 廃材煉瓦の再利用に関する基礎的研究
 M-0050 若林 直樹 (株)間組 木粉混入モルタルの物性に関する実験研究

白井伸明教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0005 石田 真治 材齢が異なるコンクリートの引張軟化特性に関する AE 計測併用実験
 M-0016 岡野 守宏 AE 法による RC 部材の損傷評価に関する基礎的研究
 M-0045 藤田 敬 東京ガス都市開発(株) 高靱性材料を用いた部材の FEM による性能評価に関する実証的研究

関口克明教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0015 太田 裕司 戸田建設(株) 光の方向性に着目した空間の明るさ感に関する研究
 M-0025 小泉 由紀 NTTシステム技研(株) 反射音のマスクングを考慮したホール音場の評価に関する研究
 M-0027 佐藤 浩史 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 客席を反射面として利用したコンサートホールの音響設計手法に関する研究
 M-0031 鈴木 清久 東京電力(株) 光環境からみた夜間街路空間の空間構成に関する研究

関澤勝一教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0010 井上 真一 大建工業(株) 小学校における学校図書館を中心とした学習リソースセンターに関する研究
 M-0029 十文字 健 東京都品川区立小学校における特色ある学校づくり推進を意図した学校選択制度の評価に関する研究

高宮真介教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0003 飯山 千里 野毛山動物ミュージアム 小規模動物園の自然学習拠点としての再生
 M-0011 井上 玲 戸田建設(株) 総合型地域スポーツクラブ施設の設計
 M-0020 加藤健太郎 都営北品川アパート再生計画
 M-0023 黒川 千聡 フロンヴィルホームズ名古屋 久屋大通公園の再生
 M-0024 黒川 泰孝 Tokyo Arts and Disability Center 障害者芸術活動の拠点施設を核とした美術館の設計
 M-0035 立川 博之 ソニーマーケティング(株) ニュータウンにおける長寿命化住宅団地の設計

野村 歡教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0028 下畑 新 高齢者保健福祉施設における入所者の移動能力および平面構成から見た火災時の避難に関する研究
 M-0033 鈴木 基恵 横浜市総合リハビリテーションセンター 子育て期の夫が家事しやすい住宅環境に関する研究

半貫敏夫教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0007 石鍋雄一郎 構造ソフト(株) 層間変形レベルの P- 効果と鋼構造物の弾塑性応答の関連性について
 M-0008 石渡 憲司 MMS マンションマネジメントサービス(株) 偏芯鋼構造骨組の耐力と捩り変形性能について
 M-0038 戸成 建人 ミサワホーム(株) 56 豪雪における大スパン鋼構造物の屋根雪荷重評価に関する数値解析的研究
 M-9061 渡辺 博之 町田市役所 勾配屋根の滑落雪における屋根勾配、静止摩擦係数の影響に関する数値解析的研究

平山善吉教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0001 青木 敦資 積水ハウス(株) 既存木質住宅の耐震補強に関する実験的研究 格子状耐力壁との併用効果

三橋博巳教授

・ 建築学専攻 ・

- M-0019 加藤 健 新日経(株) 高強度鉄筋コンクリート造有孔梁に関する研究 せん断強度の検討
 M-0026 小原 太一 西武鉄道(株) 火葬施設空白市町における連帯火葬計画に関する研究

本杉省三教授

・建築学専攻・

M-0002 阿藤 俊博

野田清掃工場の設計 生活文化情報機能を複合した中間処理場の提案

若色峰郎教授

・建築学専攻・

M-0006 石塚 智一

(株)前川建築設計事務所

『美術館大学院大学』学芸員高等教育施設の設計

M-0014 大井 祐介

多摩ニュータウン諏訪五丁目団地の立替え計画 接地型集合住宅による団地再生

M-0022 神長 洋平

墨田区体育館の再生計画 都心における健康スポーツ公園の提案

M-0043 馬場 兼伸

荒川区地域体育館の計画と設計 リハビリテーションを目指す公共スポーツ施設の提案

M-0047 前田 敏広

『水元自然学習館』地域型環境教育を目指した公園内施設の設計

M-0048 増田 健作

民間施設を複合した駅前公共施設の計画と設計 “MUSASHINO COMPLEX”

宇杉和夫助教授

・建築学専攻・

M-0049 森 大樹

バルコスペースシステムズ

精神障害者グループホームと地域支援システムに関する研究

石田道孝専任講師

・建築学専攻・

M-0044 張山 成樹

既存特別養護老人ホームのユニット型居住環境転換に関する考察

小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於嶋勝也専任講師

・不動産科学専攻・

M-0001 今福 幸一

経済産業省

大都市周辺部に立地するSOHOへの交流拠点整備に関する研究 木更津テレワークセンターをケーススタディ事例として

M-0002 岩成 尚

街路空間における座り滞留に関する研究 原宿・表参道を事例として

M-0003 上原和歌子

上原事務所

民間借家における定期借家権制度の利用促進に関する研究

M-0008 尾熨斗啓介

国際証券㈱

不動産証券化による地方自治体所有不動産の活用可能性に関する研究

M-0012 小川 東

(財)千代田区街づくり推進公社
(社会人大学院)

地区計画区域内における狭小敷地の建築更新誘導に関する研究 東京都千代田区一ツ橋二丁目周辺地区を事例として

横内憲久教授

・不動産科学専攻・

M-0004 内田 貴裕

森トラスト(株)

環境からのまちづくりに関する研究 大都市における生物多様性を促す都市計画手法の検討

M-0005 内山 貴信

三菱信託銀行

沿岸域における環境事業のPFI導入の可能性に関する研究 建築物等の建設にともなう法規制の緩和を中心として

M-0006 大越 正之

(財)東京都新都市建設公社
(社会人大学院)

土地区画整理事業における建設コンサルタントの新たな役割に関する研究

三橋博巳教授

・不動産科学専攻・

M-0007 大林 直臣

森ビル(株)

東京都心部におけるオフィスビルのストックの有効利用に関する研究 住宅への転用助成制度に着目して

M-0010 宮崎 悟

(株)デニーズジャパン

災害時における広域火葬への対応に関する研究 埼玉県の火葬施設空白都市を例として

横内憲久教授・榛澤芳雄教授

・不動産科学専攻・

M-0011 横江 友幸

日立アプリケーションシステムズ(株)

千葉市における中心市街地活性化に関する研究 中心市街地内の移動の利便性に着目して

学部

氏名の右肩*印は企画経営コース，無印は建築学コースを表す。

学生番号	氏名	進路・就職先	論文題目
安達俊夫教授・山田雅一助手			
8007	厚見麻里子	旭化成ホームズ㈱	スペクトル強度に基づく間隙水圧モデルの適用性に関する研究
8048	江川 豊	新日本建設㈱	
8054	大迫祐一郎	千葉セキスイハイム㈱	締めめ砂杭による改良地盤の荷重 沈下特性に関する実験的研究
8221	西島 優介	東京ミサワホーム㈱	
8056	大島 義清	ユナイテッド不動産㈱	円形せん断土槽を用いた地盤の液状化実験に関する研究
8241	原 寛武*	日本大学大学院	
8065	大見山拓也	飛鳥建設㈱	土の剛性低下に着目した液状化判定法の不攪乱試料への適用性に関する研究
8164	関本 栄紀	戸田建設㈱	
8170	高梨美奈子	御殿場市役所	盛土地盤上の住宅及び盛土周辺地盤の圧密沈下挙動に関する研究
8321	渡辺 宜樹	住友林業㈱	
8270	松尾 綾輔	㈱タカラスタンダード	仮動的実験手法を用いた二方向入力による飽和砂地盤の液状化特性に関する研究
7273	吉田 雅之	トステム㈱	
0812	亀田 千恵	勝村建設㈱	セメント改良土の強度・変形特性に関する研究 基本的な強度・変形特性
7226	星野 肇	富士ハウス㈱	
石丸辰治教授・石垣秀典助手			
8013	荒井 洋太	住友林業㈱	ゴム球免震支承に関する研究
8105	楠本 真紀	㈱イーエス	
8145	澁谷 哲平	㈱ミサワホーム静岡	
8155	杉山 友也	東北大学大学院	
8193	田中 理夫	㈱一条工務店	
8257	本多 剛	大和ハウス工業㈱	亀壁制震壁に関する研究
8284	宮崎 泰介	積水ハウス㈱	
8285	宮島 洋平	日本大学大学院	
8034	伊藤 洋介	日本大学大学院	
8074	小河 高之	日本大学大学院	
8133	斎藤 貴文	東京工業大学大学院	張力導入型トグルに関する研究
8300	山口 潤	日本大学大学院	
0804	今岡 響子	トステム㈱	
8134	佐々木和優樹	トステム㈱	
8154	杉本 直之	日本大学大学院	
8254	堀内慎一郎	清水建設㈱	Toggle Strut Systemに関する研究
7214	平澤 貴大		
8222	西村 敦	Space Design College	
8234	服部 力	㈱一条工務店	



井上勝夫教授・橋本 修専任講師・富田隆太助手



8011	天野 圭介	日本大学大学院	} 残響過多音場における拡声音の方向定位に関する検討 公共空間内の音声伝達による避難誘導
8194	田上 桂吾	大和ハウス工業(株)	
8262	真壁 誠	東映アニメーション研究所	
8314	吉村 忠治	(株)中央住宅	
8110	小泉 広視	三井ホーム(株)	} 建築物内における電波伝搬特性と無線LAN通信性能に関する研究
8136	佐藤 絵里	トステム(株)	
8159	鈴木 涼太	日本大学大学院	
8195	千葉 洋行	積水ハウス(株)	} オープンプラン型小学校を対象とした音環境の実態及び学習形態による発生の違いと児童のうるささの基準に関する研究
8069	岡崎 昌之	教員希望(玉川大学通信教育学部)	
8192	田中 聡	旭化成ホームズ(株)	
8206	仲田 淳也	三菱電機ビルテクノサービス(株)	
8151	杉田 浩子	タカラスタンダード(株)	} 高齢者の歩行特性と歩行感からみた住宅床の安全性に関する研究
8174	高橋 奈美	東日本旅客鉄道(株)	
8191	館田 大輔	旭化成ホームズ(株)	
8202	内藤 武夫	扶桑レクセル(株)	} 穴あきPC大型合成床の振動特性
8075	小河原 諭	千葉セキスイハイム(株)	
8156	鈴木 崇子	(株)ナカノコーポレーション	
8266	増淵 英明	鉄建建設(株)	
8009	阿部今日子	日本大学大学院	} 住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度
8019	池浦 春華	日本大学大学院	
8106	久保由季子	東急ホーム(株)	

片桐正夫教授・大川三雄専任講師・重枝 豊専任講師



8002	アウン・チョー・ヘイン	日本大学研究生	パガン遺跡の建築と美術
8015	安藤 豊彦	鉄建建設(株)	建物配置から見る今小路西遺跡の研究
8033	伊藤 弘美		三角錫子の動作経済からみた台所改良に関する研究 雑誌『主婦の友』を中心とする考察
8050	海老沢陽平	旭化成ホームズ(株)	ジャン・ブルーベ(1900-1984)の建築活動に関する研究 建築観と43つの‘キョウドウ’
8131	斎藤英一郎	日本大学大学院	建築家・西沢文隆の建築観と庭園観 「透ける」空間概念から見た考察
8142	澤口 裕司	野村土地建物(株)	日本の入浴史における明治大邸宅の意義について 上流階級の住まいにおける浴室の配置からみる一考察
8051	遠藤 直子	大和ハウス工業(株)	18世紀から20世紀にかけての家具近代化の諸相に関する研究
8083	海保 裕司	日本大学大学院	近代建築家の「床の間」観とその空間構成手法に関する研究
8160	須藤 大輔	日本大学研究生	クメール建築における参道空間についての一考察 空中参道の構成について
8166	高木 茂晴	日本大学大学院	大江宏(1913-1989)の伝統意識に関する研究
8180	田河 新平		広島市・呉市における近代建築物の現況と保存の可能性
8197	坪田 慎介	東京工業大学大学院	住宅作家・保岡勝也の捉えた数奇屋造りについて
8200	富永 康介		アンコール遺跡のピラミッド型寺院の基壇について
8208	中野 裕行	(株)福田組	東南アジアの歴史的建築物の紹介ホームページ作成
8211	中村 妙	大東建託(株)	ピラミッド型遺跡における基壇の削形に関する類型と考察
8212	中村 昌典		近代における歌舞伎の場の変遷に関する研究 歌舞伎小屋から歌舞伎劇場へ
8215	永野真利子	日本大学大学院	9~10世紀におけるクメール建築の経蔵の開口部幅と平面の変遷について
8224	根上由紀枝	積和不動産中部(株)	クメール建築における付属建築物についての一考察 ダルマサーラの形態

			と平面計画
8271	松田加奈子	道灌山学園保育福祉専門学校	近代日本における幼児教育施設の変遷に関する研究 欧米諸国における教育思想の日本への影響について
0802	石崎 絵里	日本大学大学院	フエ民家の構造について 分棟型民家の構造との比較による一考察
0808	尾高 吉典	東京消防庁	禅宗寺院における甃の史的研究
0814	河野 嘉章	天草産業㈱	柱径と平面形態からみた心御柱の特徴に関する研究 大社造に関して
0815	小菅 淳子	住友林業㈱	英国カントリーハウスの平面変遷と住まい方に関する考察
0820	杉山佐知子	日本大学研究生	クメール建築の開口部とその施工技術について
0805	山崎 裕子	日本大学大学院	『源氏物語』六条院に見られる寝殿造りの空間について

小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於崎勝也専任講師



8001	相澤総一郎*	大和ハウス工業㈱	東京23区における区立小中学校の統廃合による学校跡地活用の実態に関する研究
8005	麻生 真司*	スターツ㈱	
8084	柿沼 康祐*	大和ハウス工業㈱	エコタウン事業実施過程における自治体・企業・住民が果たした役割に関する研究
8187	武井美奈子*	㈱共立建築設計事務所	
8024	石橋 哲也	高橋カーテンウォール工業㈱	地下歩行空間の地上出入口部における空間特性に関する研究
8026	石渡 正浩		
8190	田島 亮子	日本大学大学院	「地域活性化事業」が住民意識に与える影響に関する研究 「越後妻有アートネットワーク整備事業」を事例として
8046	海野 拓郎*		
8121	小松 洋平	東北大学大学院	マルコフ連鎖モデルによる回遊行動評価に関する研究 東京都町田市の中心市街地をケーススタディとして
8246	樋口 大輔		
8288	本木 大介	清水建設㈱	公的住宅に対する不動産証券化導入に関する研究
8062	大場 孝広*		
8073	小川 啓輔*	大和ハウス工業㈱	
8102	京原 弘典		
0827	中村 誠	積水ハウス㈱	
8071	岡本 成正	大和ハウス工業㈱	
8247	飛矢 啓典		
8256	本願 雅史	日本大学大学院	
8313	吉野 太一	東北大学大学院	
8225	野田 悠介*	日本大学大学院	
8275	松本 直也	西松建設㈱	
8293	守谷 界人*	ゴールドクレスト	
8302	山崎 俊夫*		

斎藤公男教授・黒木二三夫(短大)助教授・岡田 章専任講師



8032	市川 雄一	日本大学大学院	ガラスファサードに用いる
0821	高岡 祐	西松建設㈱	リブ構造の基礎的研究
8040	岩淵 佳隆	日本大学大学院	間伐材の張弦梁への適用性に関する研究
8079	小沢 寛	大成建設㈱	2002W 杯スタジアムにおける計画と技術
8172	高橋 克彰	大成建設㈱	
8176	高橋 令奈	日本大学大学院	建築会館中庭における組立式・可動屋根架構について
8087	金子 尚史	日本大学大学院	
8093	河合 寿幸	㈱田村設計	
8251	廣田 麻衣	日本大学大学院	

8091	樺沢 洋	(株)ゴールドクレスト	}	Tensegric Truss Type ガラスファサードの施工実験について
8162	関口 洋平	日本大学大学院		
8113	小嶋 一寛	横河工事(株)	}	Two Way Curvature Spread Scissors (T.C.S.S) の提案
8140	佐藤 康光	三井造船(株)		
8127	後関 孝啓	日本大学大学院		String Scissors System への張弦梁システムの有効性について
8157	鈴木 晴信	日本大学大学院	}	高ライズネット補強空気膜構造の可能性に関する研究
8278	三木 良太	積水ハウス(株)		
8297	柳井 麻里	日本大学大学院	}	間伐材を用いた T.T.A.-Type (森のアーチ) の設計と施工のプロセス
8203	中尾 義雄	積水ハウス(株)		
7199	貫井 慎也			
8240	原 幸子			建築会館においての膜屋根部分の検討
8260	前田 佳織	トステム(株)		膜のクリープ実験についての報告
8303	山田 貴裕	三菱地所ホーム(株)		廃材利用木材の可能性に関する研究
0807	呉 有紀	日本大学大学院		ばねストラットシステムについて

清水五郎教授

8003	青木 貴雄	三井ホーム(株)		ダンボールによる仮設空間「ダンボールハウス」の建造	
8006	安達 昌隆	(株)長谷川コーポレーション	}	アンコール遺跡映像のデジタル編集	
8264	増田祥二郎	(株)山善			
8029	泉 長門	新菱冷熱工業(株)	}	吸水性状に基くモルタル・コンクリートの品質評価に関する実験的研究	
0810	上久保晃子	(株)アイフルホームテクノロジーズ			
8043	白田さつき	高橋カーテンウォール工業(株)		廃材煉瓦の再利用に関する基礎的研究	
8223	西山 建吾	信州ミサワ(株)		雪国住宅の特性とその周辺環境の整備に関する調査研究	
8229	橋本 朋宏	埼玉県警察本部	}	日大理工旧 1 号館解体時の耐久性評価	
8235	服部 正浩	大建工業(株)			
8309	吉荒 茂樹	江間忠木材(株)	}	木粉混入モルタルの物性に関する実験研究	
8318	渡部 理	三協アルミニウム工業(株)			

白井伸明教授・森泉和人助手

5188	高山 忠之			AE 法による RC 部材の損傷評価に関する基礎的研究	
8292	森田 用三	住友不動産建物サービス		非線形 FEM による RC 平板のせん断解析	
8324	和田 亮平			高強度材料を用いた RC 耐震壁の非線形 FEM 解析	
0828	成田 貴之	鹿島建設(株)		材齢と水セメント比が異なるコンクリート破断面の 3 次元形状と力学特性	

関口克明教授・吉野泰子(短大)助教授・羽入敏樹(短大)専任講師

8273	松本しのぶ	旭化成ホームズ(株)	}	行為に即した光環境の在り方に関する研究	
8287	村井 聡子	日本大学大学院			
8059	大槻 剛士	パナホーム千葉			
8182	滝川 敦子	川崎設備工業(株)	}	ドーム型多目的ホールの音響設計に関する研究	
8237	林 美予子	日本大学大学院			
8059	川島 勇	日本大学大学院	}	街並みの照明要素が夜間歩行時に及ぼす心理的影響	
8227	橋田 知子	植野石膏模型製作所			
0824	土橋 祐子	旭化成ホームズ(株)	}	音場測定における指向性マイクロホンを用いた SBTs の算出方法について	
8041	岩本 公生	日本大学大学院			
8290	森 崇紀				

8255	堀江 正浩	日本大学大学院	}	都市の認知構造から見た光環境に関する研究 ランドマークと場所の認知の関連性
9806	河合 聖悟	積水ハウス(株)		
8177	高橋 渉	日本大学大学院	}	屋外における自然風の性状に関する基礎的研究 光の到来方向と視線方向が明るさ感に与える影響
8021	石川 祐子			
8070	岡本 和久			
8279	水野 博行	大和ハウス工業(株)		
8320	渡辺 剛之	大和ハウス工業(株)		
0811	上條 智里			

関澤勝一教授・佐藤直樹助手

7265	山中 清雄		}	幼児と住空間の研究 地域と連携した学校のあり方
8031	依知川裕樹	(株)ティー・シー・エフ		
8053	大内麻由子	(株)丹青社	}	小学校の余裕教室を利用した放課後の遊び場“新BOP”から考える新しい子どもの遊び場に関する研究 地域コミュニティの拠点としての小学校・公園のあり方 大学キャンパス内における休み時間時での学生の「座る場所」についての研究 小学校におけるいじめを緩和させるための空間の研究 使われ方別にみる平面計画から分析される手法からの検討 子どもと高齢者のふれあいの場である縁側についての研究 子どもと高齢者のふれあいに関する研究 豊島区における児童館とことぶきの家の事例研究
8092	軽部 格	秩父市役所		
8129	後藤 裕	大成建設(株)		
8094	川崎 優介	住友林業(株)		
8125	近藤 真弓	(株)飯田産業		
8163	関根三佳子	専門学校		
8139	佐藤 博喜	(株)乃村工藝社		
8149	末宗 誠仁	(株)リクルートコスモス	}	子どもと高齢者のふれあいに関する研究 豊島区における児童館とことぶきの家の事例研究 学校校舎の余裕教室を利用した複合化の方法について 中学校・高等学校・大学における外国語教育を目的とした教室空間計画についての一考察 日本住宅公団による集合住宅の型の成立の背景に関する研究
8189	竹内 正人	(株)細田工務店		
8230	長谷川恭子	積水ハウス(株)		
8602	山田 真一	法政大学大学院		



高宮真介教授・佐藤慎也助手

7222	二村弘志郎	日本大学大学院	}	図書館のビルディングタイプと社会的背景の相関関係
8018	五十田昇平	日本大学大学院		
8028	泉 健一郎	日本大学大学院	}	小学校施設複合化の沿革 台東区における複合小学校の沿革 複雑化した住棟形状の集合住宅におけるコーナー部分の研究 駅空間の都市圏にある駅ビルと街とそこにある駅前広場の配置の分析 建築に於けるガラスの歴史とその発展について 初等教育における美術学習と美術館についての研究 小学校と美術館との連携, これからの美術館の在り方について 集合住宅の共有空間を機能させるために有効な共有空間と居室の配置関係について ヘルマン・ヘルツベルハーの集合住宅から分析される手法から検討する 建築外壁を構成する建築材料についての考察 SDレビューによる外装材に対する建築家の設計意図調査 ピーター・ウォーカーのランドスケープデザイン手法の研究 作品と20世紀の芸術活動の変遷をたどることによる分析 日本における増改築の構成形式に関する研究 都市ローマの都市デザインの変遷に見る街路と広場の空間構成
8037	井村 大輔	日本大学大学院		
8108	倉持 和広			
8168	高田 直美	日本大学大学院		
8209	中野 利咲	(株)大和ハウス工業		
8210	中村 航	早稲田大学研究生		
8218	西 俊博	日本大学大学院		
8242	原 紘之			
8249	平林由起子	三井ホーム(株)		



8267 町田めぐみ

建築と道空間の研究 敷地内に計画されるパブリックスペースの事例を通して

野村 勲教授・八藤後 猛助手



- 8025 石森 貴広 旭化成ホームズ(株)
- 8167 高杉 紀江 小林建築事務所
- 8188 竹内 佳里 村井敬合同設計
- 8248 平島 幸二 スガツネ工業(株)
- 8310 吉崎 洋一 (株)戸田建設
- 8049 海老沢 葵 (株)三冷社
- 8080 尾辻 伸彦 大東建託(株)
- 8118 小林 卓哉 日本大学大学院
- 0803 井上 智絵 陰山建設(株)
- 0809 小俣 剛優 (株)東栄住宅
- 0818 鹿内 薫 北信土建(株)
- 0833 前田 祥子 市川甚商事(株)
- 8061 大橋 美和 センチュリー21
- 8226 芳賀 宣則 (株)ミサワホーム福島
- 8243 原田美沙子 三井ホーム(株)
- 8283 宮川 みお ユナイテッド不動産(株)
- 8294 森成 浩史 北信土建(株)
- 8123 小山奈緒子 (株)千葉ミサワホーム
- 8323 和田裕美子 旭化成ホームズ(株)

都営大江戸線バリアフリー調査

小規模医療施設における障害者・高齢者の配慮に関する研究

乳幼児を対象とした身体計測装置の開発とデータ収集による建築安全計画への考察 乳幼児の家庭内事故防止に関する研究

建築計画から見た駅型保育施設に関する研究

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師



- 8008 安部香菜子 日本大学大学院
- 8036 井原 貴司 (株)一条工務店
- 8038 入倉 庸仁 (株)キャッツ
- 8090 金本 章浩 新日本空調(株)
- 8115 小平 武史 デザイン専門学校希望
- 8152 杉原 正樹 東洋熱工業(株)
- 8214 永田 貴之 トステム(株)
- 8276 松本 勇一* 三井不動産住宅サービス(株)
- 8307 横田 正紀 セック(株)
- 8317 涌井 康宏
- 6062 浦田 政俊 NSK(株)
- 4059 大森 泰樹 (株)飯田産業
- 8138 佐藤 紘明 ダイダン(株)
- 8148 城定 章 (株)大気社
- 7058 小川 順五 大鉄工業(株)
- 8169 高梨 拓己 旭化成ホームズ(株)
- 8217 成瀬 剛史 (株)レオパレス21
- 7054 岡野 徹 大和ハウス工業(株)

ホルムアルデヒド対策住宅におけるホルムアルデヒド濃度と浮遊真菌濃度の実態調査

日本大学理工学部駿河台校舎における省エネルギーとCO₂排出削減の研究 日本大学理工学部駿河台校舎のエネルギー利用の実態とCO₂排出量の予測

都心に立地する高層建物の自然換気の可能性の研究 各種大型吹き出し口からの吹き出し気流の気流・温度分布に関する実験的研究

各種大型吹き出し口からの吹き出し気流による温熱環境に関する被験者実験

御茶ノ水界限における夜間屋外広告物の色特性に関する調査研究

実験動物の飼育環境に関する文献調査からの一考察

半貫敏夫教授



8017	飯田 祥敦	旭化成ホームズ(株)	南極昭和基地居住区のスノドリフト対策に関する研究 居住区周辺の風環境とその改善に関する風洞実験
8044	内田 邦宏	(株)本久	56豪雪における大スパン鋼構造物の屋根雪荷重評価に関する数値解析的研究 屋根勾配と屋根葺き材が構造物の応答に及ぼす影響
8082	小山田徳彦	セキスイツーユーホーム東京(株)	個別要素法による屋根上積雪の滑落シミュレーション及び積雪層に発生する応力、変位に関する研究
7096	久保 拓也	(株)情報システムエンジニアリング	積雪に埋没した構造物に作用する積雪沈降力の試算 積雪に埋没した水平棒に働く積雪沈降力
6067	呉 白龍	帰国	積雪に埋没した構造物に作用する積雪沈降力の試算 積雪に埋没した片持ち梁に働く積雪沈降力
8023	石橋 康平	(株)島村工業	角形鋼管柱 - H形断面梁接合部を用いた半剛接架構の構造性能に関する研究 ずらしダイヤフラム補強の性状把握(その1)
8099	北村 雄一	戸田建設(株)	角形鋼管柱 - H形断面梁接合部を用いた半剛接架構の構造性能に関する研究 ずらしダイヤフラム補強の性状把握(その2)
8047	江川 大輔	三井ホーム(株)	偏心鋼構造物の荷重-変位応答特性に関する数値解析的研究
8088	金子 有太	神奈川セキスイハイム(株)	ひずみ硬化を伴う鋼構造部材の耐力と変形能力 その1 基本的性質の定式化と解析方法
8072	小川 一夫	大和工商リース(株)	ひずみ硬化を伴う鋼構造部材の耐力と変形能力 その2 基本的性質の定式化と解析方法
8052	遠藤 悠介	日本大学大学院	ひずみ硬化を伴う鋼構造部材の耐力と変形能力 その3 基本的性質の定式化と解析方法
8104	日下 元彦	日本大学大学院	鋼柱の弾塑性挙動に与える付加曲げモーメントの影響

平山善吉教授・斉藤俊一助手



7028	伊藤 淳悟	(株)HUSER	木質住宅のメンテナンスに関する意識調査および基礎的研究
7192	成田 将規*	富士ハウス(株)	
8067	岡 斉昭	神奈川西バナホーム(株)	
8103	清川 晃	東京ミサワホーム(株)	
8137	佐藤 理	日本大学大学院	合板ガセット接着接合の基礎的研究
8109	小石 正利	(株)浅沼組	
8173	高橋 聖子	トステム(株)	
8274	松本 貴子	Santa Ana College	クメール建築の迫り出し構造の力学的解明
0830	橋立 伸明	(株)長谷工コーポレーション	
0832	穂谷 洋介	信州ミサワホーム(株)	
8150	菅谷伊佐央	千葉セキスイハイム(株)	
8258	本田 貴士	(株)穴吹工務店	
0822	田中 美穂	清水建設(株)	

三橋博巳教授



8081	小原沢義久	西松建設(株)	建築物の屋根上積雪荷重に関する研究 切妻屋根の形状係数について
8175	高橋 裕輝	日本大学大学院	
8181	田川 洋介	日本大学大学院	高強度鉄筋コンクリート造有孔梁に関する研究 既往実験データの検討
8296	安井 治	西日本技術開発(株)	
8322	和田 一真	(株)ダイナシティ	

8306	結城 大	(株)ペイントハウス	} 給排水設備の維持管理実態と利用者意識に関する研究
8308	横山 純平	(社)建築・設備維持保全推進協会	
8204	中川めぐみ*	(株)ジェイホーム	台東区の近代建築の保全方策に関する研究
8236	早坂 綾子*	住友不動産販売(株)	積雪期地震における防災計画に関する研究 避難計画について
8066	山田 章*	(助)千葉市住宅供給公社	} 不動産の鑑定評価に関する研究 減価修正・物理的要因を中心に
8231	長谷川 玄*	日本大学大学院	
8060	大沼 健介*	東急ホーム(株)	} SI(スケルトン・インフィル)型集合住宅の供給手法に関する研究
0831	原田幸太郎*	新日本建設(株)	
7206	浜田 潤一*	(株)ハウジング恒産	

本杉省三教授・佐藤慎也助手

8012	天野 亮世	日本大学大学院	大衆居酒屋チェーン店の厨房における各種スペースについて		
8064	大宮 久恵		歌舞伎の客席空間構成 江戸歌舞伎を中心に		
8077	小倉 千佳		既存建物の用途変更により生まれた劇場の考察		
8101	木村 昭博		前川國男の建築設計活動に見る社会への視座 その姿勢から学ぶこと		
8126	近藤 隆蔵	(株)椎名英三建築設計事務所	オフィスビルディングの変容と今後の展望		
8141	佐藤 慶延	日本大学大学院	建造物の高層化、巨大化における観念的欲求に関する研究		
8143	塩山 博史	(株)船場	駅前商店街の変遷と都市空間の変化に関する研究 西荻窪商店街におけるケーススタディ		
8219	西 博之	日本大学大学院	杉並区民センターの利用実態について 各室の利用状況と利用者の活動について		
8228	橋本 尚平		万国博パビリオンに見る「未来感」の歴史		
8282	光藤 直		ラウンジの研究 新宿タカシマヤ・タイムズスクエアにおけるケーススタディ		
8291	森田耕太郎		駅構内における複合機能の評価と今後の展開		
8298	柳沢 哲		近代建築に附随する広告・看板の研究 そこから送られる情報の質		

若色峰郎教授・渡辺富雄専任講師

8027	石渡 恵		利用目的からみた小学校建築の充足状況・開放状況に関する研究 M市T小学校のアンケート調査に基づいて		
8057	大杉 将文	三輪建築設計事務所	建築物の屋上緑化に関する研究 推進策と緑化手法の現状		
8097	川手 裕允	日本大学大学院	スケルトン・インフィル(SI)型集合住宅の計画手法に関する研究		
8116	小西 啓介	旭化成ホームズ(株)	プレハブ住宅のプランタイプからみる生活様式の多様性二世帯住宅の事例考察から		
8117	小西 義博	日本大学大学院	北区における地域施設の利用状況に関する調査研究		
8119	小林 由佳		都市における広場の構成要素に関する研究 屋外彫刻(アートワーク)の見え方と配置手法について		
8238	林 義尚	日本大学大学院	博物館における来館者の鑑賞行動に関する研究 交通博物館をケーススタディとして		
8244	馬場 智史	日本大学大学院	商店街の空間構成に関する研究 戦後ヤマ市に起源をもつ都内3商店街を事例として		
8250	広瀬美奈子	日本大学大学院	美術館の展示空間に関する研究 採光手法についての事例考察		
8252	福田 章	日本大学大学院	美術館のプログラムについて 規模・諸室構成の変遷からみた一考察		
8295	矢崎 亮	(株)三井ホームデザイン研究所	建築素材としてのアルミニウムに関する研究 住宅建築におけるアルミニウムの展望と展開		

- 0806 江川 徹 事務所建築におけるアメニティ空間に関する研究 都心部に立地するオフィスビルを事例として
- 7263 山田 敦浩 ニュータウンの再生策について 多摩・千里ニュータウンを事例として

今村雅樹助教授

- 8063 大平 貴臣 日本大学大学院 サイバースペースとの共生による建築の可能性について
- 8076 小熊ちひろ 早稲田大学研究生 保存と再生に関する研究
- 8086 金子 哲 日本大学大学院 施設建築の開放について
- 8199 戸塚 浩樹 日本大学大学院 変化し続ける都市の中での建築について
- 8201 友村 有香 日本大学大学院 集合住宅における共用空間について
- 8261 前廣 容子 オープンスペースの研究
- 8277 丸吉 泰道 日本大学大学院 地下空間の活用に関する研究
- 8286 向井 晴香 こうへい企画(株) 商店街における空き店舗の活用による発展性
- 8289 本山 ゆら 富士ハウス 家具が構成するインテリア空間に関する研究
- 0823 鴫崎 亘 郵政事業の公社化に伴う郵便局の変化



宇杉和夫助教授

- 8100 金 眞鎬 日本大学大学院 韓国民俗村の景観構成・眺望空間に関する研究
- 8114 小島 達雄 日本大学大学院 公空間の私化・私空間の公化と居住空間の変化に関する研究
- 8128 後藤 真史 } 多様なコモンスペース型住宅 の検討 建築学科学生の家族像・住まい像の分析を通して
- 8216 生井 雅浩 }
- 8269 松井 真平 }
- 8263 牧原 延之 トヨタホーム名古屋 景観学習のための学校学習空間と景観要素 その1 記憶に残る景観要素と地域環境
- 8184 田口 徹也 景観学習のための学校学習空間と景観要素 その2 学校からの眺望と景観のシステム
- 8186 田口 佳秀 長野県庁 伝統的住宅居住地の高齢者の居住空間整備 出雲崎町並地区におけるケーススタディ
- 0834 松原 京子 すまいミュージアムとしての住宅展示場に関する研究
- 0817 佐波 浩 視覚障害者の都市環境と歩行訓練



岡村武士助教授

- 8068 岡 隼人 日本大学大学院 自然素材の構造物への応用に関する基礎的研究
- 8078 長村 貞治 ミサワホーム(株) }
- 8153 杉本 龍生 (株)大林組 } 廃棄物を複合したコンクリート(NMC)の強度特性
- 8315 米嶋 隆彦 (株)竹中工務店 }
- 8124 近藤 祭子 (株)協立建築設計事務所 }
- 8144 柴田 麻衣 } 産業廃棄物の基本物性
- 8165 高木 和美 (株)プレスキット }
- 8171 高根沢美佳 (株)荒井設計 }
- 8312 吉田 悟史 フジモリ産業(株) } 廃棄物のリサイクル事例と複合材の開発
- 8268 町田 裕 (株)フルハウス }
- 8272 松原 壮馬 (株)ジェイ・エス・ピー } 廃棄物を複合したコンクリート(NMC)の微視的観察



石田道孝専任講師



- | | | | |
|------|--------|----------------|---|
| 8014 | 安藤 誠二* | (株)クラスト | } 都市公園における利用実態研究
公園利用者の流動・滞留行動を中心とした利用状況調査 |
| 8146 | 庄司 篤史 | | |
| 8179 | 高間 英一 | (株)スタジオ38 | |
| 8213 | 中山 雅庸 | (株)一条工務店 | |
| 8035 | 猪股 悟史 | (株)三井不動産住宅サービス | 特別養護老人ホームの個室化と家具類の持ち込みに関する研究 |
| 8112 | 鯉沼 千晴 | つくば建築設計事務所 | 福祉関連複合地域利用施設の建設計画に関する基礎的研究 10万人規模の自治体における建設・計画動向を通して |
| 8122 | 小峰 裕 | 千葉・三沢ハウス | 住宅産業における高齢化対応の現状分析 ハウスメーカ10社の製品比較を中心として |
| 8183 | 滝沢 礼恵* | (株)リライнс | 災害時におけるライフライン整備に関する研究 災害用トイレの整備計画を中心とした配慮事項の検討 |
| 8196 | 網川 陽 | 積水ハウス(株) | 自治体における高齢者・障害者を対象とした住宅改修・改修制度に関する研究 |
| 8205 | 中川 嘉之 | | 福祉のまちづくりの新たな視点に関する研究 福祉のまちづくりにおける現状をノーマライゼーション理念に基づき再点検する |
| 8233 | 服部昌太郎 | 大和ハウス工業(株) | ユニバーサルデザインの展開手法に関する基礎的研究 機能障害分類による要素分析を中心として |
| 0813 | 倉田 桂子 | (株)パナホーム・茨城 | 多様化する住機能に対応する可変住宅の提案 |

柳田 武専任講師



- | | | | |
|------|-------|----------------------|---|
| 8004 | 浅岡 淳平 | アットホーム(株) | 建築用3次元CGにおけるプレゼンテーション
テクニックについて |
| 8016 | 飯田 忠 | (株)一条工務店 | } 空間情報検索システムの構築方法の検討 「空間体験」のデジタルブ
ク化をとおして |
| 8299 | 山岸 正人 | 神奈川セキスイハイム | |
| 8045 | 内田 大介 | 三井ホーム(株) | } 管理・更新のしやすさを考慮したHPの作成について CAD研究室HP
運営マニュアル |
| 8111 | 小出 晋 | (株)ダイナシティ | |
| 8058 | 太田 将哉 | | 情報技術による「建築」という概念の拡張性について |
| 8161 | 関 晴仁 | (株)有線ブロードネット
ワークス | 建築CAD教育の入門段階における実践的プログラムの提案 2次元CAD
と汎用ドローイングソフトを使った建築図面作成トレーニングの試み |
| 8232 | 幡宮 祥平 | | 建築における前衛表現としての「ドローイング」の可能性について |
| 6055 | 上岡 俊亮 | 日本マクドナルド | 高齢者及び障害者に対応した住宅のあり方について |

下村幸男(短大)教授



- | | | | |
|------|-------|----------------|--------------------------|
| 7207 | 浜田 武 | (株)日立エイチ・ピー・エム | } 実大杭基礎モデル群の動特性に関する実験的研究 |
| 7255 | 薬師寺豪介 | | |

中山 優(短大)助教授



- | | | | |
|------|-------|----------|---|
| 0801 | 阿部 洋 | 富士ハウス(株) | } プレキャスト・プレストレストコンクリート部材のせん断性状に関する
実験的研究 |
| 0805 | 内桶 明 | (株)穴吹工務店 | |
| 0825 | 中井 泉 | (株)一条工務店 | |
| 0826 | 中村 匡 | (株)松下産業 | |
| 6292 | 森永 真市 | (株)三浦工務店 | |

短期大学部

学生番号	氏名	進路・就職先	所属ゼミ			
0001	秋山ひとみ		下村	0052	紺野なつみ	理工・海建 吉野・羽入
0002	浅尾 宏彦		下村	0053	後藤 直人	㈱タキミズ 内藤
0003	阿部 貴紘	工学部	中山	0054	後藤菜津子	理工・建築 吉野・羽入
0004	阿部 隼	生産工・建築工	吉野・羽入	0055	後藤ひとみ	理工・建築 中山
0005	新井 明香	理工・建築	小石川・田所	0056	斉藤 陽	文理・数学 内藤
0006	飯田 哲裕	理工・建築	小石川・田所	0058	三枝 正和	東海大学海洋学部 岡田
0007	五十嵐 傑	理工・建築	下村	0059	坂本 浩樹	内藤
0008	石井 優紘	理工・海建	岡田	0060	櫻澤 拓也	前橋工科大学 小石川・田所
0010	石坂 一樹		吉野・羽入	0061	笹野 勝久	生産工・建築工 中山
0011	磯尾 康弘		岡田	0062	佐藤 静江	下村
0012	市川 由香	理工・建築	吉野・羽入	0063	佐藤 辰憲	岡田
0013	井上 稔之		吉野・羽入	0064	佐藤 大輔	専門学校 内藤
0014	岩崎 七菜	理工・建築	小石川・田所	0065	佐藤 広樹	生産工・建築工 内藤
0015	岩村 賢		下村	0066	佐藤 友香	国士館大学 内藤
0017	宇佐美裕子	理工・建築	岡田	0068	佐藤 淑美	理工・海建 下村
0018	宇野 孝	工学部	内藤	0071	進藤 良文	生産工・建築工 岡田
0020	大木 清隆	理工・土木	下村	0072	鈴木 邦彦	理工・建築 黒木
0021	太田 俵多	理工・建築	下村	0073	鈴木 裕美	理工・海建 中山
0022	大谷 歩	理工・海建	吉野・羽入	0074	鈴木 亮	アクティブ 吉野・羽入
0023	大津 なほ		中山	0075	関 千枝子	上田情報ビジネス 吉野・羽入
0024	大塚 綾乃	理工・土木	黒木	0076	関川 智	理工・建築 下村
0026	大橋 正照	国際理工専門学校	吉野・羽入	0077	高岸 淳	理工・建築 中山
0027	大橋 正博	商学部	吉野・羽入	0078	高田 康史	日本工業大学 小石川・田所
0028	岡島 弘幸		中山	0079	高橋 美喜	理工・海建 中山
0029	小川 譲史	生産工・建築工	下村	0080	高橋 操	理工・海建 内藤
0030	小川 瑛隆	理工・海建	小石川・田所	0081	高橋 優子	東洋大学 内藤
0031	小川 陽子	理工・海建	吉野・羽入	0082	高松 克敏	理工・建築 岡田
0032	荻原 修	芸術学部	中山	0083	滝沢 吾朗	黒木
0033	尾又 勲	理工・建築	下村	0084	竹田 恒彦	黒木
0034	恩田 敦史	工学部	中山	0085	武田 洋史	岡田
0035	恩田安矢子		中山	0086	田崎 一成	理工・海建 吉野・羽入
0036	加藤 綾子	理工・建築	小石川・田所	0087	醍醐 輝	理工・建築 下村
0037	金井 紘一		内藤	0088	抱石 理香	理工・建築 小石川・田所
0038	亀川 佳代	理工・建築	小石川・田所	0089	千田 新拓	理工・海建 小石川・田所
0039	川手 俊裕	理工・海建	小石川・田所	0090	塚田 健二	理工・海建 吉野・羽入
0041	菊地 瑠依	理工・建築	岡田	0091	塚村厚太郎	生産工・建築工 中山
0042	北郷 卓也	理工・土木	下村	0092	辻村 慎吾	吉野・羽入
0043	北村 篤史	理工・建築	吉野・羽入	0093	津田 剛	積和建設浜松 黒木
0045	木下 拓也	理工・建築	小石川・田所	0094	鶴岡恵美子	千葉工業大学 吉野・羽入
0046	國司 基	理工・海建	岡田	0096	寺崎 蘭	理工・海建 吉野・羽入
0048	桑谷 佑子	理工・海建	中山	0097	永瀬 隆光	理工・建築 中山
0049	黒木南々子	理工・建築	吉野・羽入	0098	南雲 幸子	理工・建築 小石川・田所
0050	黒木 祐輔	日建学院	吉野・羽入	0099	並木 勝弘	理工・建築 中山
0051	小林 功		内藤	0100	西田 佳代	理工・海建 岡田

0101	羽柴 知佐	理工・建築	吉野・羽入	0122	松下 雅彦		小石川・田所
0102	蓮見 恭正	理工・建築	小石川・田所	0123	黛 直矢	理工・建築	小石川・田所
0103	林 暢之	神奈川大学	岡田	0124	丸山由香里		中山
0104	林 真義		小石川・田所	0125	水澤 美保	理工・建築	内藤
0105	林部 豊	理工・建築	中山	0126	皆川奈緒美	生産工・建築工	内藤
0106	半谷智佳子	理工・建築	吉野・羽入	0128	齋 厚司		内藤
0107	肥後絵梨子	理工・海建	吉野・羽入	0129	源栄 千鶴		吉野・羽入
0108	平岩 謙治	理工・海建	吉野・羽入	0130	守屋 孝史	理工・海建	小石川・田所
0110	平田 泰祥	理工・建築	内藤	0131	八巻 陽介	理工・海建	吉野・羽入
0111	深沢ちひろ		黒木	0133	横堀 将之	理工・海建	吉野・羽入
0113	福田 聖子		岡田	0134	吉川 美鈴	理工・建築	内藤
0114	藤瀬 智子	理工・海建	吉野・羽入	0135	吉澤 晴香	生産工・建築工	岡田
0115	船木 洋介	理工・海建	岡田	0136	吉田 豊	理工・海建	吉野・羽入
0116	古谷 法子	アイフルホーム	吉野・羽入	0139	龍野 大介		中山
0117	細尾 雅史	神奈川大学	吉野・羽入	0140	渡邊 未央	理工・建築	小石川・田所
0118	前川 優里	理工・建築	岡田	9034	国見 健吾	工学部	小石川・田所
0119	巻田 千尋	生産工・建築工	吉野・羽入	9075	野崎 賢士	工学院大学	横山
0120	増田 淳	理工・海建	黒木	9104	望月 敬士	神奈川大学	小石川・田所
0121	増田 雅美	神奈川大学	内藤				

井上勝夫教授は、安岡正人教授（東京理科大）、橋秀樹教授（東大生研）と連名で、建築学会技術報告集第14号（2001年12月）に「床衝撃音測定用標準重量衝撃源の開発」と題する論文、福島寛和氏（建築研究所）と連名で「木造集合住宅の遮音性能に関する研究者・技術者へのアンケート調査結果」と題する論文、また、福島寛和氏（前掲）、安岡正人教授（前掲）他と連名で「住宅品質確保促進法における住宅性能表示制度の音環境項目について」と題する論文、の3編を発表した。

総長指定の総合研究「地球型社会の総合的研究」第 期「21世紀の地球と人間の安全保障」が平成11～13年の3年にわたって実施され、平成14年3月12～13日に開催された国際シンポジウムをもっておおむね終了した。本研究には建築学科から、小嶋勝衛教授、井上勝夫教授、三橋博巳教授、根上彰生助教授、宇崎崎勝也専任講師、丸尾直美総合科学研究所教授、野村勲教授が参画しており、国際シンポジウムでは三橋、野村、丸尾の3先生がパネリストとして講演を行った。

平成14年4月1日発令の人事により渡辺

教室ぶろむなード

富雄先生が、専任講師に昇格された。

建築学科の人事異動

新任

桑原 立郎（建築設計 , ）

近藤 康弘（デザイン基礎 , 建築設計 ）

田中 雅美（デザイン基礎 , 建築設計 ）

安田 博道（デザイン基礎 , 建築設計 ）

葭内 博史（デザイン基礎 , 建築設計 ）

飛坂 基夫（建築材料実験）

徳山 英邦（会计学）

退任

小川 守之（建築設計 , ）

曾我部昌史（建築設計 , 設計演習 ）

西沢 立衛（建築設計 , 設計演習 ）

山崎 敬三（デザイン基礎 , 建築設計 ）

平賀 友晃（建築材料実験）

大塚 浩記（会计学）

短大建設学科の人事異動

・平成14年4月より、星和磨副手が新たに

着任した。

・平成14年度よりお世話になる非常勤講師の先生と、平成13年度をもってご退任される先生は以下のとおりである。（ ）内は担当科目、敬称略。

新任

小松 清路（デザイン基礎, 建築設計 ）

三瓶 満真（建築設計 , ）

池上 雅之（視覚伝達デザイン）

退任

大沢 悟郎（建築設計 , ）

鳥居 和茂（デザイン基礎 , ）

平成14年3月16日(土)駿河台校舎9号館901講堂において、アストリッド・クライン、小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、西沢立衛氏を審査員とした、AD2002とAD2002+の選考が行われた。当日は、多くの学生が参加し、熱心に目と耳を傾けていた。応募された16作品からAD2002は、今村研究室の友村有香さんによる、Alternative Housingに決まり、AD2002+は、高宮研究室の飯山千里さんによる「野毛山動物ミュージアム」(P.24参照)に決まった。AD2003とAD2003+は、より多くの情熱のある作品の応募を期待しています。

駿建目次

(2002.4 Vol.30 No.1 通巻118号)

表紙 青森市北国型集合住宅

国際設計競技特別賞受賞

設計:本杉研究室 撮影:本杉研究室

青森市北国型集合住宅国際設計競技特別賞受賞

建築学科履修要項

短期大学部建設学科履修要項

専門科目使用教科書並びに参考書

平成13年度建築学科就職状況 18

平成13年度各賞受賞者一覧 23

修了生・卒業生就職先・研究課題一覧 26

教室ぶろむなード 40

『駿建』 発行者・片桐正夫：千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp>
平成14年度編集委員：本杉省三・岡村武士・根上彰生・重枝 豊・渡辺富雄・石垣秀典・佐藤慎也・佐藤直樹 印刷：奥村印刷株

0101	羽柴 知佐	理工・建築	吉野・羽入	0122	松下 雅彦		小石川・田所
0102	蓮見 恭正	理工・建築	小石川・田所	0123	黛 直矢	理工・建築	小石川・田所
0103	林 暢之	神奈川大学	岡田	0124	丸山由香里		中山
0104	林 真義		小石川・田所	0125	水澤 美保	理工・建築	内藤
0105	林部 豊	理工・建築	中山	0126	皆川奈緒美	生産工・建築工	内藤
0106	半谷智佳子	理工・建築	吉野・羽入	0128	齋 厚司		内藤
0107	肥後絵梨子	理工・海建	吉野・羽入	0129	源栄 千鶴		吉野・羽入
0108	平岩 謙治	理工・海建	吉野・羽入	0130	守屋 孝史	理工・海建	小石川・田所
0110	平田 泰祥	理工・建築	内藤	0131	八巻 陽介	理工・海建	吉野・羽入
0111	深沢ちひろ		黒木	0133	横堀 将之	理工・海建	吉野・羽入
0113	福田 聖子		岡田	0134	吉川 美鈴	理工・建築	内藤
0114	藤瀬 智子	理工・海建	吉野・羽入	0135	吉澤 晴香	生産工・建築工	岡田
0115	船木 洋介	理工・海建	岡田	0136	吉田 豊	理工・海建	吉野・羽入
0116	古谷 法子	アイフルホーム	吉野・羽入	0139	龍野 大介		中山
0117	細尾 雅史	神奈川大学	吉野・羽入	0140	渡邊 未央	理工・建築	小石川・田所
0118	前川 優里	理工・建築	岡田	9034	国見 健吾	工学部	小石川・田所
0119	巻田 千尋	生産工・建築工	吉野・羽入	9075	野崎 賢士	工学院大学	横山
0120	増田 淳	理工・海建	黒木	9104	望月 敬士	神奈川大学	小石川・田所
0121	増田 雅美	神奈川大学	内藤				

井上勝夫教授は、安岡正人教授（東京理科大）、橋秀樹教授（東大生研）と連名で、建築学会技術報告集第14号（2001年12月）に「床衝撃音測定用標準重量衝撃源の開発」と題する論文、福島寛和氏（建築研究所）と連名で「木造集合住宅の遮音性能に関する研究者・技術者へのアンケート調査結果」と題する論文、また、福島寛和氏（前掲）、安岡正人教授（前掲）他と連名で「住宅品質確保促進法における住宅性能表示制度の音環境項目について」と題する論文、の3編を発表した。

総長指定の総合研究「地球型社会の総合的研究」第 期「21世紀の地球と人間の安全保障」が平成11～13年の3年にわたって実施され、平成14年3月12～13日に開催された国際シンポジウムをもっておおむね終了した。本研究には建築学科から、小嶋勝衛教授、井上勝夫教授、三橋博巳教授、根上彰生助教授、宇崎崎勝也専任講師、丸尾直美総合科学研究所教授、野村勲教授が参画しており、国際シンポジウムでは三橋、野村、丸尾の3先生がパネリストとして講演を行った。

平成14年4月1日発令の人事により渡辺

教室ぶろむなード

富雄先生が、専任講師に昇格された。

建築学科の人事異動

新任

桑原 立郎（建築設計 , ）

近藤 康弘（デザイン基礎 , 建築設計 ）

田中 雅美（デザイン基礎 , 建築設計 ）

安田 博道（デザイン基礎 , 建築設計 ）

葭内 博史（デザイン基礎 , 建築設計 ）

飛坂 基夫（建築材料実験）

徳山 英邦（会计学）

退任

小川 守之（建築設計 , ）

曾我部昌史（建築設計 , 設計演習 ）

西沢 立衛（建築設計 , 設計演習 ）

山崎 敬三（デザイン基礎 , 建築設計 ）

平賀 友晃（建築材料実験）

大塚 浩記（会计学）

短大建設学科の人事異動

・平成14年4月より、星和磨副手が新たに

着任した。

・平成14年度よりお世話になる非常勤講師の先生と、平成13年度をもってご退任される先生は以下のとおりである。（ ）内は担当科目、敬称略。

新任

小松 清路（デザイン基礎, 建築設計 ）

三瓶 満真（建築設計 , ）

池上 雅之（視覚伝達デザイン）

退任

大沢 悟郎（建築設計 , ）

鳥居 和茂（デザイン基礎 , ）

平成14年3月16日(土)駿河台校舎9号館901講堂において、アストリッド・クライン、小泉雅生、佐藤光彦、杉千春、西沢立衛氏を審査員とした、AD2002とAD2002+の選考が行われた。当日は、多くの学生が参加し、熱心に目と耳を傾けていた。応募された16作品からAD2002は、今村研究室の友村有香さんによる、Alternative Housingに決まり、AD2002+は、高宮研究室の飯山千里さんによる「野毛山動物ミュージアム」(P.24参照)に決まった。AD2003とAD2003+は、より多くの情熱のある作品の応募を期待しています。

駿建目次

(2002.4 Vol.30 No.1 通巻118号)

表紙 青森市北国型集合住宅

国際設計競技特別賞受賞

設計:本杉研究室 撮影:本杉研究室

青森市北国型集合住宅国際設計競技特別賞受賞

建築学科履修要項

短期大学部建設学科履修要項

専門科目使用教科書並びに参考書

平成13年度建築学科就職状況 18

平成13年度各賞受賞者一覧 23

修了生・卒業生就職先・研究課題一覧 26

教室ぶろむなード 40

『駿建』 発行者・片桐正夫：千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp>
平成14年度編集委員：本杉省三・岡村武士・根上彰生・重枝 豊・渡辺富雄・石垣秀典・佐藤慎也・佐藤直樹 印刷：奥村印刷株式会社